

有価証券報告書

事業年度 自 2023年1月1日
(第84期) 至 2023年12月31日



KURIYAMA

クリヤマホールディングス株式会社

E02979

第84期（自2023年1月1日 至2023年12月31日）

有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用して、2024年3月28日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書の添付書類は含まれておりませんが、監査報告書は末尾に綴じ込んでおります。



KURIYAMA

クリヤマホールディングス株式会社

目 次

頁

第84期 有価証券報告書

【表紙】

第一部 【企業情報】	1
第1 【企業の概況】	1
1 【主要な経営指標等の推移】	1
2 【沿革】	3
3 【事業の内容】	4
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	9
第2 【事業の状況】	11
1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	11
2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】	13
3 【事業等のリスク】	16
4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	19
5 【経営上の重要な契約等】	24
6 【研究開発活動】	24
第3 【設備の状況】	25
1 【設備投資等の概要】	25
2 【主要な設備の状況】	26
3 【設備の新設、除却等の計画】	27
第4 【提出会社の状況】	28
1 【株式等の状況】	28
2 【自己株式の取得等の状況】	31
3 【配当政策】	31
4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	32
第5 【経理の状況】	49
1 【連結財務諸表等】	50
2 【財務諸表等】	90
第6 【提出会社の株式事務の概要】	104
第7 【提出会社の参考情報】	105
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	105
【監査報告書】	巻末

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2024年3月28日
【事業年度】	第84期（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）
【会社名】	クリヤマホールディングス株式会社
【英訳名】	KURIYAMA HOLDINGS CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役CEO 小貫 成彦
【本店の所在の場所】	大阪市中央区城見1丁目3番7号
【電話番号】	06(6910)7013
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役員 元木 雄三
【最寄りの連絡場所】	大阪市中央区城見1丁目3番7号
【電話番号】	06(6910)7013
【事務連絡者氏名】	取締役 執行役員 元木 雄三
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第80期	第81期	第82期	第83期	第84期
決算年月		2019年12月	2020年12月	2021年12月	2022年12月	2023年12月
売上高	(千円)	55,130,609	49,953,440	59,549,262	71,475,868	71,672,990
経常利益	(千円)	3,175,837	3,319,903	4,778,275	4,971,413	4,520,525
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	2,030,436	1,444,918	3,809,799	3,637,204	3,793,475
包括利益	(千円)	2,085,160	590,109	5,821,069	6,260,582	6,267,372
純資産額	(千円)	22,355,481	22,709,635	28,305,060	34,315,085	39,660,154
総資産額	(千円)	46,507,682	45,921,127	52,222,447	62,909,126	64,537,807
1株当たり純資産額	(円)	1,145.06	1,163.18	1,449.02	1,750.19	2,021.91
1株当たり当期純利益	(円)	104.15	74.11	195.32	186.23	193.62
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	48.0	49.4	54.1	54.5	61.4
自己資本利益率	(%)	9.4	6.4	15.0	11.6	10.3
株価収益率	(倍)	7.5	8.7	6.1	4.4	4.7
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	2,972,195	4,507,315	3,221,377	△2,118,609	4,498,195
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△1,411,837	△2,040,028	△1,210,555	△1,010,437	646,302
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△934,174	△1,041,141	△2,620,853	2,837,926	△5,209,457
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	5,946,194	7,309,576	7,220,334	7,446,493	7,438,096
従業員数	(人)	1,128	1,141	1,196	1,211	1,219
(外、平均臨時雇用者数)		(82)	(86)	(78)	(89)	(86)

- (注) 1 当社は、2019年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。第79期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益を算定しております。
- 2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 当社は、「株式給付信託(BBT)」を導入しております。株主資本において自己株式として計上されている信託が保有する当社株式は、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
- 4 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第83期の期首から適用しており、第83期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
- 5 従業員数は就業人員を記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第80期	第81期	第82期	第83期	第84期
決算年月	2019年12月	2020年12月	2021年12月	2022年12月	2023年12月
営業収益 (千円)	1,353,864	1,849,084	1,861,866	2,298,346	3,776,811
経常利益 (千円)	679,665	1,207,078	1,023,457	1,318,145	2,598,692
当期純利益 (千円)	572,475	1,141,326	1,000,008	1,294,279	2,526,281
資本金 (千円)	783,716	783,716	783,716	783,716	783,716
発行済株式総数 (千株)	22,300	22,300	22,300	22,300	22,300
純資産額 (千円)	4,630,125	5,217,134	5,895,239	6,753,933	9,008,353
総資産額 (千円)	10,236,219	12,116,230	11,661,485	11,637,524	12,569,098
1株当たり純資産額 (円)	237.49	267.60	302.17	344.84	459.70
1株当たり配当額 (円)	20.00	21.00	25.00	30.00	45.00
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益 (円)	29.36	58.54	51.27	66.27	128.94
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	45.2	43.1	50.6	58.0	71.7
自己資本利益率 (%)	12.8	23.2	18.0	20.5	32.1
株価収益率 (倍)	26.6	11.0	23.1	12.5	7.0
配当性向 (%)	68.1	35.9	48.8	45.3	34.9
従業員数 (人)	15	28	38	38	43
(外、平均臨時雇用者数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
株主総利回り (%)	109.3	93.3	170.6	125.9	142.0
(比較指標：配当込みTOPIX) (%)	(118.1)	(126.8)	(143.0)	(139.5)	(178.9)
最高株価 (円)	1,004	791	1,249	1,213	990
最低株価 (円)	689	392	601	815	776

- (注) 1 当社は、2019年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。第79期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益を算定しております。
- 2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 当社は、「株式給付信託 (BBT)」を導入しております。株主資本において自己株式として計上されている信託が保有する当社株式は、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
- 4 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第83期の期首から適用しており、第83期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
- 5 最高株価及び最低株価は、2022年4月4日より東京証券取引所(スタンダード市場)におけるものであり、それ以前は東京証券取引所(市場第二部)におけるものであります。

2 【沿革】

年月	事項
1939年4月	栗山ゴム商会の商号で創業。
1940年12月	栗山護謨株式会社を設立。
1957年2月	王子ゴム化成株式会社（持分法適用関連会社）へ出資し、工業用ゴム製品の製造（ゴムライニング等）を開始。
1968年6月	Kuriyama of America, Inc.（連結子会社、米国・シカゴ）を設立し、米国でのゴム・プラスチック製品の販売を開始。
1969年10月	栗山ゴム株式会社に社名変更。
1978年3月	タイガースポリマー(株)との合弁で米国イリノイ州にTigerflex Corporation（持分法適用関連会社）を設立し、プラスチックホースの製造を開始。
1979年3月	栗山興産株式会社（連結子会社、2021年社名変更：クリヤマブリージア(株)）を設立し不動産業、ビル管理業務を開始。
1983年4月	クリヤマ株式会社に社名変更。
1984年9月	Kuriyama Canada, Inc.（連結子会社、カナダ・オンタリオ州）を設立し、プラスチックホースの製造を開始。
1989年11月	Accuflex Industrial Hose, Ltd.（連結子会社、カナダ・オンタリオ州）を買収し、プラスチックホースの製造を開始。
1990年11月	Kuri Tec Corporation（連結子会社、カナダ・オンタリオ州）を設立し、ゴム・プラスチック製品のカナダでの販売を開始。
1991年11月	スカルパジャポネ株式会社（連結子会社、1999年社名変更：エアモンテ(株)）を設立し、登山・アウトドア用品の販売を開始。
1996年1月	王子ゴム化成株式会社（持分法適用関連会社）との合弁で、株式会社クリヤマ技術研究所を設立し、研究開発業務を開始。
1996年7月	上海栗山貿易有限公司（連結子会社、中国・上海）を設立し、中国での営業拠点として輸出入業務を開始。
1997年4月	Hose Technology, Inc.（米国・インディアナ州）を買収し、メタルホースの製造を開始。
1997年6月	王子ゴム化成株式会社（持分法適用関連会社）との合弁で靖江王子橡膠有限公司（持分法適用関連会社、中国・靖江）を設立し、ゴム・樹脂製品の製造を開始。
1998年11月	Kuri Tec Manufacturing, Inc.（連結子会社、米国・インディアナ州）を設立し、プラスチックホースの製造を開始。
2003年8月	Alfagomma S.P.A.（イタリア）との合弁でAlfagomma America, Inc.（持分法適用関連会社、米国・アイオワ州）を設立し、高圧ホースのアセンブリー、OEM商品の販売を開始。
2004年12月	東京証券取引所市場第二部に上場。
2005年4月	Piranha Hose Products, Inc.（連結子会社、米国・ミシガン州）を買収し、中高圧ホースの製造販売を開始。
2008年1月	Kuri Tec Manufacturing, Inc.（米国・インディアナ州）が、Hose Technology, Inc.（米国・インディアナ州）を吸収合併。
2012年10月	純粋持株体制移行に伴いクリヤマホールディングス株式会社に商号変更。 会社分割方式により全事業（グループ会社の経営管理機能を除く）を承継会社（新規設立会社）であるクリヤマジャパン株式会社（旧社名 クリヤマ(株)）に継承。
2012年10月	Kuriyama (Thailand) Co., Ltd.（連結子会社、タイ王国）を設立し、東南アジアの営業拠点として量産機械用資材等の販売を開始。
2015年6月	Kuriyama Europe Cooperatief U.A.（連結子会社、オランダ王国・アムステルダム市）を設立。スペイン、米国、アルゼンチンにゴム製レイフラットホース製販拠点を持つLyme Gro Holding N.V.を子会社化。
2015年9月	クリヤマジャパン株式会社（連結子会社 旧社名クリヤマ(株)）が、尿素水識別センサー、燃料識別センサーの開発・製造・販売を行う株式会社サンエー（連結子会社・広島）の株式を取得し、子会社化。
2017年5月	クリヤマジャパン株式会社（連結子会社 旧社名クリヤマ(株)）が、クリヤマコンサルト株式会社の保有する全株式を譲渡。
2022年4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所スタンダード市場へ移行
2022年7月	クリヤマジャパン株式会社（連結子会社 旧社名クリヤマ(株)）がエアモンテ株式会社（連結子会社）を吸収合併。

3【事業の内容】

当社グループは、純粋持株会社制を導入しており、当社、連結子会社18社及び持分法適用関連会社6社及び主要な持分法非適用会社2社で構成されております。当社は、持株会社として、グループの経営戦略の策定・推進、グループ経営の統括・管理・監査を行っておりますが、有価証券の取引等の規制に関する内閣府令第49条第2項に規定する特定上場会社等に該当しており、これにより、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準については連結ベースの数値に基づいて判断することとなります。当社グループの主な事業内容と各社の当該事業における位置付けは、次のとおりであり、「第5経理の状況 1連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

◆アジア事業

[産業資材事業]

国内において、主に連結子会社のクリヤマジャパン(株)が建機・農機向け工業用ゴム製品や工業用樹脂製品、船舶向けデッキコンポジション、プラント向けゴム製エキスパンション等の販売並びに設置・施工を行っております。(株)サンエーは、建機・農機向けに排ガス規制に対応する尿素SCRセンサーの設計・開発・製造を行っており、クリヤマジャパン(株)は、(株)サンエーが取り扱う尿素SCR用モジュールをタンクにアッセンブリー加工し、建機・農機メーカー向けに販売しております。持分法適用関連会社王子ゴム化成(株)は工業用ゴム製品・工業用樹脂製品等の製造販売を行っており、クリヤマジャパン(株)に商品を供給しております。中国においては、上海栗山貿易有限公司が工業用ゴム製品や工業用樹脂製品を仕入れ、中国の建機・農機向けに販売している他、クリヤマジャパン(株)及びKuriyama of America, Inc. へも製品を供給しております。また、持分法適用関連会社の靖江王子橡膠有限公司は工業用ゴム製品や工業用樹脂製品の製造販売を行い、その一部を連結子会社の上海栗山貿易有限公司に供給しております。

[スポーツ・建設資材事業]

クリヤマジャパン(株)がスポーツ施設・橋梁・港湾・歩道橋・鉄道施設・大型商業施設等の建設に使用される「モンドトラック」(全天候型ゴム製トラック)・「タラフレックス」(弾性スポーツシート)・ゴム支承・ゴム防舷材・「エーストン」(ノンスリップタイル・点字タイル)・「スーパー・マテリアルズ」(大判セラミックタイル)・高欄等のスポーツ・建設資材の販売並びに設置・施工を行っております。なお、持分法適用関連会社のオーパーツ(株)は「スーパー・マテリアルズ」(大判セラミックタイル)の施工を行っております。また、持分法適用関連会社の愛楽(佛山)建材貿易有限公司は主にクリヤマジャパン(株)へ「エーストン」(ノンスリップタイル・点字タイル)や「スーパー・マテリアルズ」(大判セラミックタイル)の輸出を行っております。

[その他事業]

連結子会社のクリヤマジャパン(株)、(株)クリヤマ技術研究所、クリヤマプリージア(株)が、それぞれ「MONTURA(スポーツアパレル)」の販売、技術研究・商品開発事業、ダストコントロール用マット等の販売・不動産管理を行っております。

◆北米事業

北米において、連結子会社のKuriyama of America, Inc.、Kuri Tec Corporation及びAccuflex Industrial Hose, Ltd. (米国)が、また中南米においては、Kuriyama de Mexico, S. de R. L. de C. V. 及びKuriyama Services, S. de R. L. de C. V. が各種産業用ホースや継手等の販売を行っております。これら販売子会社の商品の大部分は、連結子会社Kuriyama Canada Inc.、Accuflex Industrial Hose, Ltd. (カナダ)、Kuri Tec Manufacturing, Inc. 及びPiranha Hose Products, Inc. 並びに持分法適用関連会社のTigerflex Corporationから供給されています。

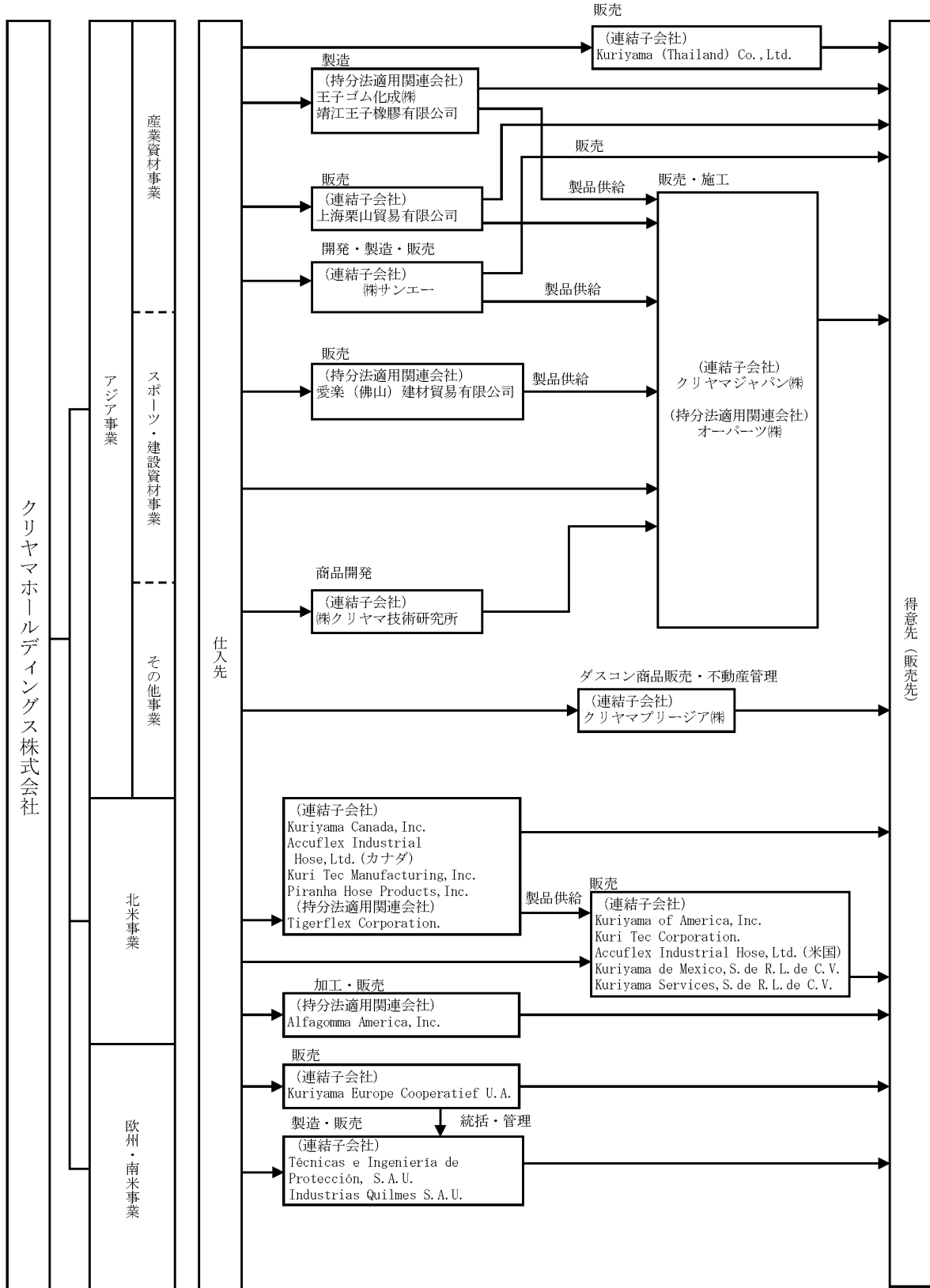
◆欧州・南米事業

欧州・南米地域を中心として、レイフラットホース・継手・消防用ホース・ノズルを製造販売しております。スペイン、アルゼンチンに製販の拠点を構え、世界各国の様々な業界に産業用・消防用ホース及びノズルの製造販売を行っております。

事業区分	事業の内容	会社名	
アジア 事業	産業資材事業	(量産機械用資材) 国内及びアジア地域における建設機械・ 農業機械向けの工業用ゴム製品及び樹脂 製品並びに尿素SCR用モジュール・タ ンク等の製造・販売 (プラント用資材) 国内及びアジア地域におけるプラント向 けゴム製エキスパンション等の販売・施 工	クリヤマジャパン(株) (株)サンエー 上海栗山貿易有限公司 Kuriyama (Thailand) Co., Ltd. クリヤマジャパン(株) 王子ゴム化成(株) 靖江王子橡膠有限公司
	スポーツ・建設 資材事業	スポーツ施設資材の販売・施工 橋梁・港湾・歩道橋・鉄道施設・大型商 業施設等への建設資材の販売・施工、建 設資材の輸出	クリヤマジャパン(株) オーパーツ(株) 愛楽(佛山)建材貿易有限公司
	その他事業	「MONTURA」(イタリア製スポーツアパレ ル)の販売	クリヤマジャパン(株)
		技術研究・商品開発	(株)クリヤマ技術研究所
	ダストコントロール用マット等の販売・ 不動産管理	クリヤマプリージア(株)	
◆北米事業	(産業用ホース) 北米地域を中心にした各種産業用ホー ス・継手等の製造販売	Kuriyama of America, Inc. Accuflex Industrial Hose, Ltd. (米国) Kuri Tec Manufacturing, Inc. Tigerflex Corporation. Alfagomma America, Inc. Piranha Hose Products, Inc. Kuriyama Canada, Inc. Kuri Tec Corporation Accuflex Industrial Hose, Ltd. (カナダ) Kuriyama de Mexico, S. de R. L. de C. V. Kuriyama Services, S. de R. L. de C. V.	
◆欧州・南米事業	(産業用ホース) 欧州・南米地域を中心にしたレイフラッ トホース・継手・消防用ホース・ノズル の製造販売	Kuriyama Europe Cooperatief U.A. Técnicas e Ingeniería de Protección, S. A. U. Industrias Quilmes S.A. U.	

- (注) 1 Accuflex Industrial Hose, Ltd.は、会社名が同一のため、()に国名を記載しております。
2 持分法非適用関連会社のKuriyama-Ohji (Thailand) Ltd.は、プラント用資材の製造販売を行っております。
3 持分法非適用関連会社のノルマ・ジャパン(株)は、ノルマ製品の取扱店に対する販促活動及び技術支援を行っております。

事業系統図



(注) 重要性が低いものに関しては上記の系統図から矢印を省略しております。

4 【関係会社の状況】

(1) 連結子会社

名称	住所	資本金又は出資金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
クリヤマジャパン(株) 注1, 4	大阪市 中央区	310,000	ゴム・合成樹脂製品を主体とした産業用、建設用、スポーツ施設用資材の製造、販売、施工 スポーツアパレルブランド「MONTURA」の販売	100.00	当社と経営管理に関する契約及び無形固定資産の使用に関する契約を締結している他、金融機関からの借入及び取引先への仕入債務等に対し、当社より債務保証を受けております。また、当社より建物及び設備を賃借しております。 当社は同社に事務処理を委託しております。また、当社は同社より資金の援助を受けております。 役員の兼任…3名 役員の派遣…2名
(株)サンエー 注1	広島県 三次市	250,000	尿素水識別センサー、燃料識別センサーの設計・開発・製造	100.00 (100.00)	役員の派遣…3名
(株)クリヤマ技術研究所 注1	山口県 山口市	95,000	ゴム製品、樹脂製品の研究、商品開発等	75.00 (75.00)	役員の兼任…1名 役員の派遣…1名
クリヤマブリージア(株) 注1	大阪市 淀川区	95,000	ダスコン商品販売、不動産管理等	100.00 (100.00)	当社より建物及び設備を賃借しております。
Kuriyama of America, Inc. 注1, 5	米国 イリノイ州	16,700 千US\$	樹脂ホース・ゴムホース、メタルホース等の販売	100.00	当社は同社へ経営指導を行っている他、金融機関からの借入に対し、当社より債務保証を受けております。 役員の兼任…1名
Accuflex Industrial Hose, Ltd.	米国 ミシガン州	0.1 千US\$	樹脂ホース・ゴムホースの販売	100.00 (100.00)	役員の兼任…1名 役員の派遣…1名
Kuri Tec Manufacturing, Inc. 注1	米国 インディアナ州	1,000 千US\$	樹脂ホースの製造	100.00 (100.00)	役員の兼任…1名
Piranha Hose Products, Inc. 注1	米国 ミシガン州	4,000 千US\$	樹脂ホースの製造	100.00 (100.00)	役員の兼任…1名
Kuriyama Canada, Inc. 注1	カナダ国 オンタリオ州	11,000 千CAN\$	樹脂ホースの製造	100.00 (40.00)	当社は同社へ経営指導を行っております。 役員の兼任…1名 役員の派遣…1名
Kuri Tec Corporation 注1	カナダ国 オンタリオ州	1,400 千CAN\$	樹脂ホース・ゴムホースの販売	100.00 (100.00)	役員の兼任…1名 役員の派遣…1名
Accuflex Industrial Hose, Ltd. 注1	カナダ国 オンタリオ州	1,560 千CAN\$	樹脂ホースの製造	100.00 (100.00)	役員の兼任…1名 役員の派遣…1名
Kuriyama de Mexico, S.de R.L. de C.V.	メキシコ合衆国ヌエボ・レオン州	3千PESO	樹脂ホース・ゴムホースの販売	100.00 (99.00)	役員の兼任…1名
Kuriyama Services, S.de R.L. de C.V.	メキシコ合衆国ヌエボ・レオン州	3千PESO	樹脂ホース・ゴムホースの販売	100.00 (99.00)	役員の兼任…1名
上海栗山貿易有限公司 注1	中華人民共和国 上海市	16,370 千元	工業用ゴム・合成樹脂製品の販売	100.00 (100.00)	役員の兼任…1名 役員の派遣…2名
Kuriyama (Thailand) Co., Ltd. 注1	タイ王国 チョンブリ県	90,000 千バーツ	量産機械用資材等の販売	100.00 (100.00)	役員の兼任…1名
Kuriyama Europe Cooperatief U.A. 注1	オランダ王国 アムステルダム市	19,000 千ユーロ	欧州グループの統括・管理、欧州市場に特化した調達・販売	100.00 (12.50)	当社は同社へ経営指導を行っている他、金融機関からの借入に対し、当社より債務保証を受けております。 役員の兼任…1名 役員の派遣…1名

名称	住所	資本金又は出資金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
Técnicas e Ingeniería de Protección, S.A.U. 注1	スペイン バルセロナ市	450 千ユーロ	ゴム製レイフラッ トホースの製造	100.00 (100.00)	当社は同社へ経営指導を行っている 他、金融機関からの借入に対し、当 社より債務保証を受けております。 役員の派遣…1名
Industrias Quilmes S.A.U. 注1	アルゼンチン ブエノスアイレス市	104,995 千PESO	消防用ホースの製 造	100.00 (100.00)	—

(注) 1 特定子会社に該当致します。

2 上記の会社のうちには有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

3 議決権の所有割合の()は間接所有割合の内数であります。

4 クリヤマジャパン(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	24,498,913千円
	(2) 経常利益	1,735,787千円
	(3) 当期純利益	1,255,174千円
	(4) 純資産額	7,775,428千円
	(5) 総資産額	18,527,282千円

5 Kuriyama of America, Inc.については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	26,874,352千円
	(2) 経常利益	2,881,025千円
	(3) 当期純利益	2,540,778千円
	(4) 純資産額	21,749,142千円
	(5) 総資産額	32,049,661千円

(2) 持分法適用関連会社

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
王子ゴム化成(株)	山口県 防府市	200,000	工業用ゴム・合成 樹脂製品の製造と 販売	39.73 (39.73)	役員の兼任…3名 当社より建物及び設備を賃借しており ます。
Tigerflex Corporation	米国 イリノイ州	6,000 千US\$	樹脂ホースの製造	45.00 (45.00)	役員の兼任…2名
Alfagomma America, Inc.	米国 アイオワ州	3,000 千US\$	高圧ホース加工と 販売	20.00 (20.00)	役員の兼任…1名
靖江王子橡膠有限公司 注1	中華人民 共和国靖江市	34,783 千元	工業用ゴム・合成 樹脂製品の製造と 販売	—	—
愛楽(佛山)建材貿易有限公司	中華人民 共和国佛山市	2,318 千元	建設資材の輸出	40.00 (40.00)	役員の兼任…1名 役員の派遣…1名
オーパーツ(株)	千葉県 野田市	52,000	建設業に関わる 石・タイル工事業	41.31 (41.31)	—

(注) 1 2009年12月17日に出資金を王子ゴム化成(株)へ譲渡しましたが、実質的な影響力をもっているため関連会社としたものであります。

2 上記の会社のうちには有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

3 議決権の所有割合の()は間接所有割合の内数であります。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2023年12月31日現在

セグメントの名称		従業員数（名）
アジア事業	産業資材事業	278 (53)
	スポーツ・建設資材事業	117 (－)
	その他事業	28 (4)
北米事業		521 (20)
欧州・南米事業		197 (8)
報告セグメント計		1,141 (85)
全社（共通）		78 (1)
合計		1,219 (86)

- (注) 1 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は（ ）内に年間の平均人員を外数で記載しております。
 2 全社（共通）として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

2023年12月31日現在

従業員数（名）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（千円）
43 (－)	41.7	14.5	8,335

セグメントの名称	従業員数（名）
全社（共通）	43 (－)
合計	43 (－)

- (注) 1 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を（ ）外数で記載しております。
 2 平均勤続年数は出向元会社での勤続年数を通算しています。
 3 平均年間給与は、当該従業員に対して、当事業年度中に支払われた賃金であり、賞与及び基準外賃金（通勤手当は除く）を含んでおります。また、当該算定に際しては当社と出向元であるKuriyama Canada, Inc. と Kuriyama Europe Cooperatief U.A. とクリヤマジャパン(株)の給与を通算して計算しております。
 4 全社（共通）として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

該当事項はありません。

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金差異

① 提出会社

当社は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（平成27年法律第64号）及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」（平成3年法律第76号）の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。

② 連結子会社

名称	当事業年度				
	管理職に占める女性労働者の割合 (%) (注) 1	男性労働者の育児休業取得率 (%) (注) 2	労働者の男女の賃金の差異 (%) (注) 1		
			全労働者	うち正規雇用労働者	うちパート・有期労働者
クリヤマジャパン(株)	8.1	25.0	62.2	70.1	53.0
(株)サンエー	0.0	75.0	54.7	57.1	33.7

(注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（平成27年法律第64号）の規定に基づき算出したものであります。

2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」（平成3年法律第76号）の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」（平成3年労働省令第25号）第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

3. 連結子会社のうち、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（平成27年法律第64号）及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」（平成3年法律第76号）の規定による公表義務の対象でないものについては、記載を省略しています。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当社グループの経営方針、経営環境及び対処すべき課題等は、以下のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは約85年の歴史で培った技術と信頼を基に、「顧客の信頼をもとに、たゆまなく発展する会社」の経営理念と以下のグループ基本方針の実践によって、株主、顧客、地域社会、全従業員との良好な信頼関係を築き、環境、安全のコンセプトを守りながら社会的貢献に努めてまいります。

<クリヤマグループ基本方針>

1. 多様な人財の価値を活かし、地域に根差したグローバル経営を推進する
2. KURIYAMA VALUEのもと業界をリードする創造性を発揮する
3. 環境問題とステークホルダー全体に配慮した企業行動

北米におきましては、ホースメーカーとして、研究、開発、製造、販売を含めた一体型の経営を推進してまいりました。また、北米全土の物流拠点の拡充により、供給機能の改善を通じた顧客満足度の更なる向上に挑戦しております。欧州及び南米におきましては、ゴム製レイフラットホースの製造販売を行っており、北米事業や新設するオセアニア事業との融合を図りながらグローバル展開を加速させてまいります。一方、日本国内では、建機・農機のTier1サプライヤー、スポーツ施設、鉄道・文教・商業施設向け床材の販売及び施工、スポーツアパレルの販売と多角的に事業を展開しており、高い品質と迅速な顧客対応力を強化し、事業ポートフォリオの最適化を図り、安定した収益確保を実現してまいります。

加えて、グループの中核として再編する研究・開発機関において、当社グループの競争力の源泉である研究・開発機能を強化してまいります。

また、当社グループは、地域社会に身近な幅広い分野の製品を取り扱っているため、持続可能な社会の実現を目指し、地球環境や人々の安全・安心を追求した製品の開発と拡販、ダイバーシティの推進、コーポレートガバナンス改革やSDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」及びESG「Environment(環境)」、「Social(社会)」、「Governance(ガバナンス)」に関わる取組みを進めてまいります。グローバル企業として経営成績を高め、経営を安定させるためにも、海外グループと連携を深め、自然体でSDGs及びESGを推進できるグローバルカンパニーを目指してまいります。

(2) 目標とする経営指標

目標とする経営指標につきましては、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益を掲げております。通期(2024年12月期)の連結経営目標は、対米ドル為替レートを140円と想定し、売上高730億円、営業利益44億円、経常利益49億円及び親会社株主に帰属する当期純利益33億円としております。

なお、当連結会計年度の経営成績におきましては、売上目標710億円に対し0.9%増の716億72百万円となり、営業利益は目標42億円に対し5.5%減の39億71百万円、経常利益は目標46億円に対し1.7%減の45億20百万円となり、親会社株主に帰属する当期純利益は目標33億円に対し14.9%増の37億93百万円となりました。

(3) 経営環境

世界経済の成長は、金融引き締めによる需要押し下げの効果が顕在化する等、減速が予想されます。加えて、地政学リスクの拡大、急激な為替変動、中国経済の低迷長期化等、内在する様々な不確定要素により状況が変化することが懸念されます。

このような環境下において、当社グループは100年企業を見据えた持続的な企業価値向上を目指し、グループを横断した研究開発機能の集約、DX推進、次世代を担うグローバル人財の育成と従業員エンゲージメント向上のための人的資本投資を強化してまいります。

アジア事業の産業資材事業では、建機・農機のグローバルTier1サプライヤーの地位を確立するため、当該市場における尿素SCR用モジュール・タンク等の更なるシェア拡大に取り組んでまいります。また、北米地域の未開拓市場へ参入するための事業基盤を整備することで産業資材事業のグローバル展開を加速してまいります。

スポーツ・建設資材事業では、競技性に加えて保温性やクッション性に優れた「タラフレックス」(弾性スポーツシート)の拡販に注力し、防災拠点となる体育館等の文教施設への採用件数増加に努めてまいります。また、循環型社会に貢献する商品開発を推進し、鉄道施設の安全対策強化や商業施設等の再開発事業での需要を的確に捉え、スポーツ・商業施設等の総合床材No.1ブランドを目指してまいります。

その他事業のイタリアのスポーツアパレルブランド「MONTURA」では、トップアスリートとのスポンサー契約による市場認知度向上を図りながら、国内固有のニーズに沿った商品ラインナップを拡充することで市場への波及効果を高めてまいります。

グローバルホース事業では、産業用総合ホースメーカーとして品質と信頼のNo.1ブランドを目指した取り組みを推進してまいります。

北米事業では、本社物流倉庫の移転・拡張等による物流機能の最適化を図り、顧客満足度向上と機会損失回避のための事業環境を整備してまいります。また、米国インディアナ州にて消防用ホースの内製化に着手することで、米国

消防機関における商圏拡大を推進してまいります。

欧州・南米・オセアニア事業では、地産地消による市場優位性を活用し、スペイン、ポルトガルをはじめとした欧州域内及びアルゼンチンの消防機関向けや灌漑を含む農業分野のシェア拡大に取り組んでまいります。また、欧州から北中米・南米、中近東、アフリカへの輸出に加え、オーストラリアに新設した子会社を起点にオセアニア地域における固有ニーズを満たす供給体制を構築し、収益基盤の拡大と生産稼働率の向上に努めてまいります。

(4) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは「100年企業」を見据え、以下のグローバル戦略を掲げ、更なる成長と発展を目指しております。

＜グローバル戦略＞

1. 建機・農機のグローバルTier 1 サプライヤーとしての地位を確立する
2. 産業用総合ホースメーカーとして品質と信頼のNO. 1ブランドを目指す
3. 現地生産・現地販売を推進し、各国の経済発展に貢献する

また、当社の社是に「企業の生命は、社員の成長と発展によって支えられる」を掲げており、人的資本投資を経営戦略の1つとして捉え、人財育成、ダイバーシティ及び職場環境整備を推進しております。

加えて、営業面、製造・物流面の自動化、効率化による収益力強化を通じた企業価値向上を目指し、DX推進に積極的に取り組んでおります。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当社グループがさらに収益力向上、また企業体質の強化を図るためにも、下記の重点課題に対し、全力をあげて取り組んでまいります。

◆アジア事業

[産業資材事業]

- ① 建設機械、農業機械、トラック市場向けに排ガス規制関連商品（尿素水識別センサー及び尿素SCR用モジュール・タンク等）の開発及び販売強化
- ② 脱炭素化により広がる電動化案件の受注強化
- ③ メーカーとしての品質向上及び顧客対応能力強化
- ④ 各種センサーにおける次世代新商品の研究・開発強化

[スポーツ・建設資材事業]

- ① ユニバーサルデザインと融合した床材の新規開発と販売強化
- ② 体育館等の文教施設向けインドア施設用床材「タラフレックス」の新規及び改修物件受注強化
- ③ 鉄道施設等の安全対策に伴う設備投資需要の取り込み
- ④ 商業施設向け、都市開発案件における大判セラミックタイル「スーパー・マテリアルズ」等の受注強化
- ⑤ 中国の関連会社及び協力会社との連携強化を図り、高品質且つ安定した供給体制の確保

[その他事業]

- ① 広告宣伝活動によるイタリアのスポーツアパレル「MONTURA」の市場認知度向上と販売強化
- ② グループ会社連携によるダストコントロール関連事業の商品販売、提案強化

◆北米事業

- ① 物流体制の再構築による顧客満足度及び収益性の向上
- ② 製販一体による迅速なサービスと変化する需要に対応した適切な在庫保有によるホース市場でのシェア拡大
- ③ 地産地消に基づく消防用ホースの内製化促進
- ④ 欧州・南米事業とのシナジー効果によるグローバル展開の加速
- ⑤ 廃材リサイクルの推進

◆欧州・南米・オセアニア事業

- ① グループ会社連携による欧州、南米、オセアニア地域における販売網拡大
- ② 生産効率の更なる向上による収益力強化
- ③ 中近東、アフリカ地域等の未開拓市場への深耕

また、グローバルベースで付加価値ある技術・製品・人財を生み出す研究・開発機関を再編し、グループ横断で情報・技術・知財を集約することで、上記取組みの実効性を高めてまいります。

2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

A. サステナビリティ全般

(1) サステナビリティについての考え方

クリヤマグループは「顧客のニーズをつかみ、持続可能な社会づくりに貢献する会社」を経営ビジョンに掲げ、誰もが輝き、共に成長する豊かな未来を目指し、地球環境や社会に貢献するビジネス展開を通じて持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。

クリヤマグループは現在、持続可能な開発目標（SDGs）に関連した取り組みを行っています。今後もさまざまな社会課題の解決に事業活動を通じて取り組むことで、経済的価値を創出しながら成長を続けてまいります。

(2) マテリアリティ（重要課題）とSDGsについて

当社グループは、持続可能な社会の実現に貢献する企業であり続けるために、「全社的に取り組みを強化する課題」と「事業を通じて積極的に取り組む課題」に整理し、特に優先して取り組むべき6つのマテリアリティを特定し、特定したマテリアリティとSDGs（持続可能な開発目標）との関連付けをしています。

マテリアリティ(重要課題)		貢献するSDGs			
全社的に取り組みを強化する課題	多様な人材の価値を活かし、個々の能力を發揮できる組織づくりを目指します。	4 質の高い教育をみんなに	5 ジンダー平等を実現しよう	8 働きがいも経済成長も	10 人や国の不平等をなくそう
事業を通じて積極的に取り組む課題	①気候変動と大気汚染による影響軽減に向け、事業を通じて地球温暖化や脱炭素の課題に取り組みます。	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	13 気候変動に具体的な対策を	15 陸の豊かさも守ろう	
	②廃棄物を資源として再利用、または適正に処分することで循環型社会に貢献します。	6 安全な水とトイレを世界中に	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	12 つくも責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を
	③人々のニーズに配慮し、公共交通機関への安全なアクセスを実現するサステナブルな商品を開発、提供します。	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	11 住み続けられるまちづくりを		
	④スポーツ振興を通して人々を支え、健康社会への発展に貢献します。	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	11 住み続けられるまちづくりを	15 陸の豊かさも守ろう
	⑤新素材の活用や生産技術向上により、環境負荷低減商品の開発を強化します。	3 すべての人に健康と福祉を	6 安全な水とトイレを世界中に	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	11 住み続けられるまちづくりを

(3) サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）への取り組み

各マテリアリティにおける取り組みの詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

1. 全社的に取り組みを強化する課題

多様な人材の価値を活かし、個々の能力を發揮できる組織づくりを目指します。

- ・ KURIYAMAの働き方改革（ダイバーシティ、女性活躍推進）
- ・ 従業員を支援するための福利厚生制度と、ダイバーシティの推進
- ・ 健康経営の推進
- ・ 海外拠点の執行役員は現地で採用、育成を図る取組

(<https://www.kuriyama-holdings.com/sustainability/business/06/>)

2. 事業を通じて積極的に取り組む課題

① 気候変動と大気汚染による影響軽減に向け、事業を通じて地球温暖化や脱炭素の課題に取り組みます。

- ・ 廃棄ガスを浄化し大気汚染対策に貢献する「尿素SCRシステム」

(<https://www.kuriyama-holdings.com/sustainability/business/01/>)

- ② 廃棄物を資源として再利用、または適正に処分することで循環型社会に貢献します。
- ・セラミックタイルの廃材をリサイクル、都市型洪水やヒートアイランド現象にも貢献する「アクアスルー」
 - ・製造工程で発生するスクラップの削減と再利用により産業廃棄物量を削減
 - ・工場での水の使用量を削減するため、テストで毎回使用される水は循環型回路を採用
 - ・工場での排水は浄化システムを採用し、外部機関でシステムの性能を監視
 - ・環境に配慮したマテリアルでの高機能なMONTURAウェアの販売
 - ・環境と身体の安全に配慮した人工芝「モンドターフ」・「リモンタターフ」
(<https://www.kuriyama-holdings.com/sustainability/business/02/>)
- ③ 人々のニーズに配慮し、公共交通機関への安全なアクセスを実現するサステナブルな商品を開発、提供します。
- ・視覚障がい者の歩行を助ける点字タイル、公共交通機関での転倒事故やけがを防ぐノンスリップタイル
 - ・駅ホームでの転落事故防止のため、電鉄会社と共同開発した段差・隙間対策商品「スキマモール」
(<https://www.kuriyama-holdings.com/sustainability/business/03/>)
- ④ スポーツ振興を通して人々を支え、健康社会への発展に貢献します。
- ・競技施設から防災拠点まで多目的機能をもつ弾性スポーツシート「タラフレックス」
 - ・国内のスポーツ振興に貢献する「日本トップリーグ連携機構（JTL）」をサポート
 - ・高機能で快適な「MONTURA」の販売やスポーツ教室の開催等による健康社会への貢献
(<https://www.kuriyama-holdings.com/sustainability/business/04/>)
- ⑤ 新素材の活用や生産技術向上により、環境負荷低減商品の開発を強化します。
- ・NSF（USA）に認定された人体に適した飲料用ホース、吸引・排出ホースの製造販売
(<https://www.kuriyama-holdings.com/sustainability/business/05/>)

(4) ガバナンス、リスク管理

当社グループでは、代表取締役CEOを委員長とするリスクマネジメント委員会を定期的に開催しており、この中でサステナビリティに関するリスクと機会を認識の上、サステナビリティ重要課題を特定しつつ、持続可能な社会を実現する上でサステナビリティを考慮した経営方針及び中長期的な経営戦略並びに対処すべき事業上及び財務上の課題を協議・立案し、最終的に取締役会で決議することとしております。なお、当社グループの経営方針及び中長期的な経営戦略並びに対処すべき事業上及び財務上の課題は、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」へそれぞれ記載しております。

(5) 指標及び目標

指標及び目標の公表は行っていないが、上記「(3) サステナビリティ重要課題（マテリアリティ）への取り組み」に記載の通り、環境への配慮から気候変動問題に関する様々な課題解決に向け、大気汚染対策に貢献する製品供給や廃棄物の再利用等を通じて温室効果ガス排出削減等、積極的に取り組んでまいります。

B. 人的資本

(1) 戦略

当社グループは、社是として「企業の生命は、社員の成長と発展によって支えられる」を掲げており、人材の「材」は「財」であるという認識の下、サステナビリティの重要課題の内「多様な人材の価値を活かし、個々の能力を発揮できる組織作りを目指す」ことを全社的に取り組み強化する課題として位置づけ、人材育成とダイバーシティ及び職場環境整備を推進しております。人材育成については、経営ビジョンである「顧客のニーズをつかみ、持続可能な社会づくりに貢献する会社」に基づき、社会変化や顧客のニーズに応えられるように、社員一人ひとりが主体的に考え行動し、グローバルで活躍できることを目指しております。その取り組みとしてキャリアアップと動機付けを目的とした社員個別面談やキャリア・特性に応じた研修制度を実施している他、海外派遣制度の導入等を推進しております。人材の多様性の確保につきまして、当社グループは、国籍に捉われることなく外国人を含めた社員の採用を行っており、海外子会社においては、社員の現地採用・育成、取締役登用を進めて、現地生産、現地販売を推進しています。また、職場環境整備においては、社員一人ひとりがその能力を最大限発揮できるようにお互い尊重し、自由に意見を交え、明るい環境を整えることが重要であることから安全で衛生的で、働きやすい職場環境を確保することを基本方針としております。また、少子高齢化が進む中、「安心して子供を産める、育てられる環境作り」の実現のため、育児短時間勤務の取得対象範囲拡大や時差出勤等を一部の国内連結子会社は導入しており、働きやすい職場環境の整備に努めております。人的資本に関する取り組みについては、当社ホームページをご覧ください。

(<https://www.kuriyama-holdings.com/sustainability/business/06/>)

(2) 人的資本に関する指標及び目標

当社グループは、国内のみならず海外に子会社が複数存在しております。それぞれ会社規模や構成人員など多岐に亘っておりますが、多くの子会社は人的資本にかかる指標や目標に捉われず、各国文化や慣習を尊重しながら人財を大切に、組織運営を図っております。

国内法である「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（平成27年法律第64号）と国内でのグローバル人材育成の重要性を鑑み、まずはクリヤマジャパン(株)（中核事業会社）を公表することとしました。指標及び目標を以下の通りであります。

指標	会社名	2023年12月期実績	2026年目標
女性管理職比率	クリヤマジャパン(株)	8.1%	15.0%
男性育児休業取得率	クリヤマジャパン(株)	25.0%	25.0%
女性育児休業取得率	クリヤマジャパン(株)	100.0%	100.0%
日本からの海外派遣人数	クリヤマジャパン(株)	9人	15人
日本での外国人雇用者数	クリヤマジャパン(株)	6人	10人

3 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

1 販売価格

当社グループが取り扱う製品及び商品は多岐に亘りますが、世界的インフレによる物価上昇の影響に伴い全般的に価格転嫁の必要性が生じてきております。

当該リスクの対応策につきましては、この上で製造子会社と販売子会社連携の下、製品の付加価値と品質の向上、納期短縮に加え、販売先とのコミュニケーションを強化することで、当社製品の優位性を市場に周知することにより、販売先からの信頼を高めるように努めております。

2 公共投資の動向

当社グループは、スポーツ・建設資材事業において、道路橋梁用資材、港湾土木用資材、建築用資材、都市景観用資材、室内用スポーツ施設資材、屋外用スポーツ施設資材等を取り扱っております。これらの商品を用途別にみると道路・土木等の公共投資向け販売が約5割を占めるため、公共投資の動向が当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

当該リスクの対応策につきましては、「スーパー・マテリアルズ」（大判セラミックタイル）等のオリジナル商品の民間商業施設向け販売の拡大に努め、公共投資の受注減少リスクに備えております。

3 原材料価格

当社グループが製造する樹脂ホースの主要原材料であるレジンの価格は、原油価格の変動により影響を受けます。当社グループは原材料の調達にあたり、安定調達に十分配慮したうえで、経済環境や市況等を検討しながら仕入先との価格交渉を行い、また、年間ベースでの大量・一括契約を行うことでコスト削減に努めております。しかしながら、レジン等の原材料の価格変動が当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは、生産性の改善や販売先への価格転嫁等により、原材料コストの上昇による経営成績への影響低減を図りますが、かかる対策が期待どおりの効果を生む保証はありません。

4 在庫の必要性

当社グループは、品揃えを充実させ、適時に供給を果たすために顧客からの注文に先行して製造又は仕入を行い、一定の在庫水準を維持する必要があります。このため、当社グループが商品の需要予測を誤った場合、在庫不足による販売機会の喪失、過剰在庫の処分のための値引き販売、場合によっては商品評価損又は商品廃棄損の計上を余儀なくされ、当社グループの経営成績に影響が及ぶ可能性があります。

当該リスクの対応策につきましては、当社グループでは顧客からの購買情報、増減産、生産終了、設計変更等の情報を適時に入手し、製造子会社や協力会社にも展開した上で、適正な在庫を維持できるよう、手配及び在庫管理体制の強化に努めております。

5 物流体制

連結子会社のクリヤマジャパン㈱は、物流サービスにおいて外部物流会社との3PL契約を結んでおり、在庫・物流機能を集約することで配送を効率化していますが、当該物流センターが災害その他の理由により操業不能に陥った場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響が及ぶ可能性があります。また、海外拠点において、当社グループは、迅速な出荷を目指し、契約している配送会社を通じて商品を直送するほか、荷姿や物量により最適な運送手段を利用することで、きめ細かな配送サービスを実施しております。かかる配送体制は競合企業との差別化要因となる一方、海外拠点の物流コストを増加させる可能性があります。

当該リスクの対応策につきましては、国内の外部物流会社はその危機管理として「事業継続計画（BCP）」を策定し、自然災害等のリスクの最小化に努めております。また、海外拠点においては、配送会社との間で価格交渉を行い、物流コストの適正化に努めております。

6 海外事業の重要性

当社グループでは、北米、欧州及び中南米地域で製造したゴム・樹脂・金属製の産業用ホース等の殆どを同地域で販売しております。当連結会計年度の連結売上高の内、海外売上高は63.5%を占めております。当社グループでは今後も海外展開を積極的に行う方針であり、為替変動のほか、進出先各地域の景気・消費等経済動向、政治・社会情勢の変化及び法的規制や慣習等に起因する予測不能な事態の発生が当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

7 販売経路

当社海外グループの多くの製品及び商品は、現地の販売代理店を経由して顧客に販売されています。当社グループは特定の販売代理店に対する著しい依存はありませんが、販売代理店は競合商品も取り扱っているため、購買政策の変更が当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

当該リスクの対応策として当社グループは現地生産、現地販売を基本方針とし価格競争力向上に努めております。製造子会社と販売子会社連携の下、販売価格の妥当性検証、製品の付加価値及び品質向上、更に納期短縮に努め、市場優位性を確保することで販売代理店からの信頼を高めるようにしております。

8 為替変動の影響

連結財務諸表作成のために、現地通貨建ての財務諸表は円換算されます。このため、為替相場の変動は、現地通貨における価値に変動がなかったとしても、連結財務諸表ベースでは経営成績と財政状態に影響を与える可能性があります。また、当社グループが原材料及び商品を調達している国外との外貨建て取引は、為替変動の影響を受ける可能性があることから中長期的な為替変動は、経営成績と財政状態に影響を与える可能性があります。

9 法的規制

連結子会社のクリヤマジャパン(株)は、商品によっては販売にとどまらず設置・施工まで実施しているため、建築基準法及び建設業法等の規制を受けております。グループ各社が、万が一、何らかの事由により国土交通省その他の監督官庁から行政処分等を受けた場合、当社グループの経営成績に影響が及ぶ可能性があります。主な許認可、免許及び登録の状況は下表の通りであります。

当該リスクの対応策につきましては、各種業界団体から必要な情報を的確に収集するとともに、グループ経営会議を通じて、当社グループ内で定期的に想定される経営上のリスクの洗い出しとその評価・対応について協議しております。

取得年月	許認可等の名称	取得・登録者名	許認可等の内容	有効期限
2022年7月	特定建設業 (許可)	クリヤマジャパン(株)	国土交通大臣許可(特一 4) 第24558号 建築工事業 土木工事業	2022年6月19日から 2027年6月18日迄。 以後5年ごとに更新
同上	一般建設業 (許可)	同上	国土交通大臣許可(般一 4) 第24558号 左官工事業、タイル・れん が・ブロック工事業、防水 工事業、大工工事業、石工 事業、舗装工事業、内装仕 上工事業、とび・土工事業 業、鋼構造物工事業、塗装 工事業、屋根工事業、板金 工事業、電気工事業	同上
2022年12月	同上	同上	国土交通大臣許可(般一 4) 第24558号 管工事業 造園工事業	2022年12月13日から 2027年12月12日迄。 以後5年ごとに更新

10 会計制度・税制等の変更

当社グループが予期しない会計基準や税制の新たな導入・変更により、当社グループの経営成績や財政状態が悪影響を受ける可能性があります。また、税務申告における各国税務当局との見解の相違により、当社グループに予想以上の税負担が生じる可能性があります。

当該リスクの対応策につきましては、外部機関が主催するセミナーへの参加や専門書の定期購読などによる情報収集を行うとともに、社外専門家の助言を受けております。

11 自然災害・疫病等について

当社グループはグローバルで事業活動を推進しております。この結果、想定外の自然災害、政治経済状況の変化、感染症・伝染病等の流行、法律・規制の変更、テロ・戦争・その他社会情勢の混乱などが、財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼすリスクがあります。

当該リスクの対応策につきましては、その危機管理として「事業継続計画(BCP)」の策定を進めており、そのリスクの最小化に努めております。

12 サイバーリスクについて

標的型メールやマルウェアによるウイルス感染、不正アクセス等のサイバー攻撃の被害にあった場合、事業活動や企業評価に影響を及ぼす可能性があります。

当該リスクの対応策につきましては、グループ全体の従業員を対象としたセキュリティ教育訓練、インシデント発生時の連絡体制強化、セキュリティ標準化の推進、一部のグループ会社は24時間365日のセキュリティ監視体制、サイバーリスク保険に包括加入してグループとしてのリスクの最小化に努めております。

4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

なお、以下の記載のうち将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

①経営成績の状況

当連結会計年度における世界経済はインフレに対する金融政策の反動により、実体経済への先行き懸念が強まりつつも総じて底堅く推移しました。一方、中国経済はゼロコロナ政策解除後の景気回復に力強さを欠く状況が続きました。

このような経済状況の中、当社グループは、収益性確保のための適切な価格転嫁や市場競争力向上のための物流最適化の推進により、事業基盤の強化に努めました。

この結果、当社グループの連結売上高は、716億72百万円（前年同期比0.3%増）、営業利益は39億71百万円（前年同期比12.9%減）、経常利益は45億20百万円（前年同期比9.1%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は37億93百万円（前年同期比4.3%増）となりました。なお、親会社株主に帰属する当期純利益の主たる増加要因は、米国子会社が物流倉庫拡張のために本社及び物流倉庫を売却したことによる利益を計上したためです。

また、自己資本利益率（ROE）は10.3%となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

◆アジア事業

[産業資材事業]

日系建機・農機メーカー向けにゴム・樹脂商材の新規採用品目が増加した他、日系自動車・船舶メーカー向け関連商材の販売が好調に推移しました。一方、尿素SCR等の商材については、建機・農機及び欧州乗用車の在庫調整が続いたため販売が減少しました。また、中国経済の失速を受け、同国の建機生産台数が想定を下回ったことから関連商材の販売が減少しました。これらの結果、売上高は177億47百万円（前年同期比3.0%減）となり、損益面では価格転嫁を上回る調達コストの増加が利益を押し下げたため、営業利益は24億8百万円（前年同期比11.8%減）となりました。

[スポーツ・建設資材事業]

スタジアム、体育館等の文教施設における改修、新設物件への営業強化が奏功し、「モンドトラック」（陸上競技用全天候舗装材）及び体育館用床材「タラフレックス」（弾性スポーツシート）の販売が増加しました。また、安全対策をはじめとした鉄道の駅舎工事案件の受注に伴い、「TALE-TILE」（ホーム先端タイル）、「エンシン階段」（高密度コンクリート階段材）の販売が増加しました。一方、国内商業施設で使用される「スーパー・マテリアルズ」（大判セラミックタイル）は民間の大型設備投資案件が一巡したことからの販売が減少しました。これらの結果、売上高は90億45百万円（前年同期比14.9%減）となり、損益面では売上高の減少に加え、工事材料費や人件費高騰の影響により、営業利益は2億51百万円（前年同期比59.2%減）となりました。

[その他事業]

イタリアのスポーツアパレルブランド「MONTURA」は、名古屋への直営店出店が通期で寄与したこともあり、店舗販売及びオンライン販売が増加したものの、量販店への販売が減少しました。また、ダストコントロール事業は市場規模が緩やかな縮小傾向にあるものの、大手顧客向けにマット等の新規採用品目が増加したため、前期並みの販売を確保しました。これらの結果、その他事業における売上高が7億7百万円（前年同期比4.3%減）となりました。損益面では広告宣伝やマーケティング活動、新規出店に伴う費用の増加により、営業損失は3億11百万円（前年同期は営業損失1億91百万円）となりました。

以上のことから、アジア事業全体では、売上高は275億1百万円（前年同期比7.3%減）となり、営業利益は23億48百万円（前年同期比25.5%減）となりました。

◆北米事業

景気後退懸念を背景に一部の市場で在庫調整の傾向が見られましたが、各種ホース・継手の販売は幅広い分野で底堅く推移しました。また、米国子会社へのサイバー攻撃による一時的なシステム障害が生じつつも、供給機能の改善に向けた取り組みが機会損失の最小化に貢献しました。これらの結果に円安の影響が加わり、売上高は389億75百万円（前年同期比5.2%増）となりました。損益面では支店倉庫の新設や、本社及び物流倉庫の移転・拡張に伴う費用が発生したものの、物流機能の最適化（在庫の適正化・配送の効率化）を促進したことから、営業利益は21億56百万円（前年同期比6.0%増）となりました。カテゴリ別の概況は以下のとおりです。

▽産業用樹脂ホース「Tigerflex」

インフラ公共投資に関連する建設業をはじめ、製造業、鉱業等、幅広い分野の需要を捉えたことで総じて販売が好調に推移しました。

▽高機能/汎用樹脂ホース・飲料用ホース「Kuritec・Accuflex」

飲料用ホースは大手飲料メーカーやコンビニエンスストア向けへの販売が高水準を維持しました。その一方で、汎用樹脂ホースは年末にかけて代理店の在庫消化速度が鈍化した影響を受けて販売が減少しました。

▽ペイントスプレーホース・下水配管洗浄用ホース「Piranha」

外壁塗装用ペイントスプレーホースは価格転嫁の進展により収益性が改善したものの、市場の在庫調整により販売が軟調に推移しました。一方、下水配管洗浄用ホースの販売は活況なインフラ整備の影響を受け、好調に推移しました。

▽ゴムホース・その他

製造業、一般産業等における新規顧客獲得に加えて建設業の活況を受け、低圧用、高圧用共にゴムホースの販売が増加しました。また、消防用ホースは旺盛な需要を見越した営業体制強化が奏功したことで米国市場におけるシェア獲得が進展し、販売が好調に推移しました。

◆欧州・南米事業

欧州域内及び南米地域における地産地消の優位性を活かした営業活動により、消防機関向け「消防用ホース・ノズル」及び、農業・一般産業分野向け「レイフラットホース」の販売がスペイン・ポルトガルを中心に堅調に推移しました。また、アルゼンチンにおけるオイル・ガス生産量の増加に牽引され、長距離送水用「大口径レイフラットホース」の販売が好調だったことから、売上高は51億95百万円（前年同期比9.2%増）となりました。一方、損益面ではアルゼンチンの子会社に対する超インフレ会計適用がマイナス要因となり、営業利益は3億40百万円（前年同期比6.0%減）となりました。

②財政状態の状況

（資産）

当連結会計年度末の総資産は前連結会計年度末に比べて2.6%増加し、645億37百万円となりました。これは主に商品及び製品が12億70百万円増加したことによるものです。

（負債）

負債合計は前連結会計年度末と比べて13.0%減少し、248億77百万円となりました。これは主に短期借入金が32億3百万円減少したことによるものです。

（純資産）

純資産合計は前連結会計年度末に比べて15.6%増加し、396億60百万円となりました。これは利益剰余金が28億58百万円増加した他、為替換算調整勘定が21億45百万円増加したことによるものです。

③キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度末に比べ8百万円減少し、74億38百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、44億98百万円の増加（前年同期は21億18百万円の減少）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益58億94百万円、売上債権の減少額14億17百万円等が主な要因であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、6億46百万円の増加（前年同期は10億10百万円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の売却による収入22億63百万円と有形固定資産の取得による支出14億91百万円等が要因であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、52億9百万円の減少（前年同期は28億37百万円の増加）となりました。これは主に短期借入金の純減少額35億30百万円、長期借入金の返済による支出20億11百万円等が要因であります。

④生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	
		金額 (千円)	前年同期比 (%)
アジア 事業	産業資材事業	3,115,041	84.0
北米事業		11,011,038	85.7
欧州・南米事業		3,064,021	86.2
合計		17,190,100	85.5

(注) 1 上記金額は製造原価によっております。

2 セグメント間の取引については、相殺消去しております。

b. 商品仕入実績

当連結会計年度における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	
		金額 (千円)	前年同期比 (%)
ア ジ ア 事 業	産業資材事業	15,980,354	98.1
	スポーツ・建設資材事業	4,311,928	76.4
	その他事業	530,714	133.8
北米事業		25,662,968	98.2
欧州・南米事業		3,039,326	77.8
合計		49,525,290	94.6

(注) 1 上記金額は実際仕入価格によっております。

2 セグメント間の取引については、相殺消去しております。

c. 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)			
		受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
ア ジ ア 事 業	産業資材事業	1,017,904	129.9	324,039	134.2
	スポーツ・建設資材事業	4,466,077	107.2	1,617,666	148.5
合計		5,483,982	110.8	1,941,705	145.9

(注) 1 上記金額は連結子会社であるクリヤマジャパン(株)の工事完成高(工事進行基準を適用しているものを含む)に係るものを表示しております。

2 製造子会社は、販売計画に基づく生産計画によって生産しており、受注生産は行っておりません。

d. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称		当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)	
		金額 (千円)	前年同期比 (%)
アジア事業	産業資材事業	17,747,603	97.0
	スポーツ・建設資材事業	9,045,851	85.1
	その他	707,861	95.7
北米事業		38,975,772	105.2
欧州・南米事業		5,195,901	109.2
合計		71,672,990	100.3

(注) 1 セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2 販売実績の内、工事完成高（工事進行基準を適用しているものを含む）は以下のとおりであります。

		前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
		金額 (千円)	金額 (千円)
アジア事業	産業資材事業	838,857	935,410
	スポーツ・建設資材事業	4,525,109	3,937,891

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討事項

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

①当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

1) 経営成績

① 売上高

当連結会計年度における売上高は、716億72百万円（前年同期比0.3%増）となりました。売上高の分析につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 ①経営成績の状況」をご参照下さい。

② 売上総利益

当連結会計年度における売上総利益は、212億円（前年同期比2.9%増）となりました。主な増加要因としては、売上高の増加によるものであります。

③ 販売費及び一般管理費

当連結会計年度における販売費及び一般管理費は、172億29百万円（前年同期比7.5%増）となりました。主な増加要因としては、給与手当等の増加によるものであります。

④ 営業利益

当連結会計年度における営業利益は、39億71百万円（前年同期比12.9%減）となりました。主な減少要因としては、アジア事業の売上高が減少したことによるものであります。

⑤ 経常利益

当連結会計年度における経常利益は、45億20百万円（前年同期比9.1%減）となりました。主な減少要因としては営業利益が減少したことによるものであります。

⑥ 親会社株主に帰属する当期純利益

当連結会計年度における税金等調整前当期純利益は、58億94百万円（前年同期比17.0%増）となりました。主な増加要因としては、固定資産売却益を計上したことによるものであります。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、37億93百万円（前年同期比4.3%増）となりました。

2) 財政状態

当連結会計年度における財政状態の状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 ②財政状態の状況」に記載のとおりであります。

3) 流動性及び資金の源泉

① キャッシュ・フロー

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 ③キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

② 資金需要

当社グループの資金需要は主に大きく分けて運転資金需要と設備資金需要の二つがあります。

運転資金需要のうち主なものは商社として機能するための商品の仕入、製造子会社では製品を製造するための材料仕入、製造費、共通するものとして販売費及び一般管理費等の営業費用によるものであります。また、設備資金需要としては、主に工場設立などによる建物や機械装置等固定資産購入によるものであります。

③ 財務政策

当社グループは現在、運転資金につきましては、内部資金より充当し、不足が生じた場合は短期借入金で調達を行っております。また、設備資金につきましては、設備資金計画に基づき調達計画を作成し、内部資金で不足する場合は、長期借入金等により調達を行っております。

なお、海外子会社につきましては、運転資金、設備資金とも、直接邦銀現地法人等より調達を行っております。

4) 重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づいて作成されており、その作成にあたっては、決算日における資産・負債の報告数値及び収益、費用の報告数値について影響を与える見積り、判断及び仮定を使用することが必要となります。当社グループの経営陣は過去の実績や状況に応じた合理的な見積り、判断及び仮定により継続的に検証し意思決定を行っております。しかしながら、これらの見積り、判断及び仮定は不確実性を伴うため、実際の結果はこれらの見積りと異なる場合があります。

なお、当社グループの連結財務諸表において採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。なお、重要な会計上の見積りについては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)」及び「第5 経理の状況 2 財務諸表等 (1) 財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)」に記載しております。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社はグループ全体の発展に寄与する商品開発・技術開発のために、製造技術・製造機械のレベル向上、解析業務・評価試験の拡充等、日々研究を積み重ねております。

研究開発体制は、国内においては主に(株)クリヤマ技術研究所、(株)サンエーが行い、海外においては、Accuflex Industrial Hose, Ltd. (カナダ)、Kuriyama Canada, Inc. (カナダ)、Piranha Hose Products, Inc. (米国)、Kuri Tec Manufacturing, Inc. (米国)、Técnicas e Ingeniería de Protección, S.A.U. (スペイン)及びIndustrias Quilmes S.A.U. (アルゼンチン)の製造子会社5社が主に行っております。

当連結会計年度における当社グループが支出した研究開発費の総額は492百万円であります。

各セグメント別の研究開発活動を示すと次のとおりであります。なお、その他事業にかかる研究開発費の記載は省略しております。

◆アジア事業

[産業資材事業]

ゴム、プラスチック、新素材について材料の試験・研究及び新しい製品の開発、さらに製造技術の研究等新素材、新商品の開発及び既存製法の改良等を行っております。当連結会計年度においては、尿素SCRシステムの小型化を目的としたモジュール製品の開発に努めた他、薄膜技術を応用することで新分野のセンサー開発に引き続き取り組んでまいりました。当連結会計年度における研究開発費の金額は288百万円であります。

[スポーツ・建設資材事業]

鉄道施設等で落下防止するために使用されるスキマモールの製品改良を行った他、耐侯性の高い陸上競技場用トラックの開発を行ってまいりました。当連結会計年度における研究開発費の金額は41百万円であります。

◆北米事業

北米市場の種々のホースに関して、独自性を持った競争力のある製品の開発を行うために、米国製造子会社（2社）とカナダ製造子会社（2社）がそれぞれの製造技術の融合を図りながら、環境の変化や用途の変更に対応した新製品の開発を推進しております。当連結会計年度においては、原価低減と地球環境保護に貢献すべく、製造途中で出たスクラップ材をリサイクルできるようにその開発に引き続き注力した他、従来調達していた一部の樹脂ホースについて内製化に成功しました。また中圧のエアゴムホースを軽量且つフレキシブルなものに改良すべく、中圧の樹脂製ホースの開発に努めました。当連結会計年度における研究開発費の金額は125百万円であります。

◆欧州・南米事業

スペイン製造子会社では、長尺ホース(最大500m)の開発に努めた他、耐圧性や発光性、反射性の向上を目的にホースの製品改良に努めてきました。当連結会計年度における研究開発費の金額は37百万円であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループでは、主に生産設備の強化を図ることを目的として、北米事業を中心に全体で1,865百万円の設備投資を実施しました。

◆アジア事業

産業資材事業においては、生産設備増強や工具、器具及び備品（金型）等を中心に147百万円の設備投資を実施しました。

スポーツ・建設資材事業において国内子会社の事務所新装等を中心に39百万円の設備投資を実施しました。

その他事業においては、販売店舗の新装を中心に35百万円の設備投資を実施しました。

◆北米事業

生産設備増強を中心に1,381百万円の設備投資を実施しました。

なお、当連結会計年度における重要な設備の売却として、北米事業でKuriyama of America, inc.の本社事務所及び物流センター設備を2,262百万円で売却しました。

◆欧州・南米事業

生産設備増強を中心に191百万円の設備投資を実施しました。

◆全社

ソフトウェア購入等を中心に70百万円の設備投資を実施しました。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

2023年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他 (注1)	合計	
本社 (大阪市中央区) (注2)	産業資材事業 全社共通	事務所設備	34,755	-	-	1,278	36,034	43 {-}
クリヤマジャパン(株) 新大阪支社 (大阪市淀川区) (注3)	スポーツ・ 建設資材事業 その他事業	事務所設備	1,133,020	-	81,146 (682)	1,102	1,215,268	- {-}
クリヤマジャパン(株) 九州支店 (福岡市博多区) (注4)	産業資材事業 スポーツ・ 建設資材事業	事務所設備	75,910	-	135,018 (1,059)	109	211,038	- {-}
クリヤマジャパン(株)長崎営業所 (長崎県長崎市) (注5)	産業資材事業	事務所設備	481,281	-	143,598 (338)	230	625,111	- {-}
クリヤマジャパン(株) OEMテクニカルセンター (兵庫県丹波市) (注5)	産業資材事業	工場	187,368	-	238,860 (21,634)	-	426,228	- {-}

- (注) 1 工具、器具及び備品であります。
 2 建物を、子会社であるクリヤマジャパン(株)に賃貸しております。
 3 建物及び土地を、子会社であるクリヤマジャパン(株)及びクリヤマプリージア(株)に賃貸しております。
 4 建物及び土地を、子会社であるクリヤマジャパン(株)及び持分法適用関連会社である王子ゴム化成(株)に賃貸しております。
 5 建物及び土地を、子会社であるクリヤマジャパン(株)に賃貸しております。
 6 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は { } 内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(2) 国内子会社

2023年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他 (注1)	合計	
(株)クリヤマ 技術研究所	本社 (山口県山口市)	その他事業	研究開発設備	21,164	11,426	-	7,781	40,371	4{1}
(株)サンエー	本社及び工場 (広島県三次市)	産業資材事業	事務所及び 生産設備	415,465	274,566	153,000 (11,332)	41,551	884,583	131{5}

- (注) 1. 工具、器具及び備品であります。
 2. 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は { } 内に年間の平均人員を外数で記載しております。
 3. 上記の他、主要な設備のうち連結会社以外から賃借している設備の内容は、下記のとおりであります。

	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間賃借料又は リース料(千円)	リース期間	リース契約残高 (千円)
クリヤマジャパン(株)	東京支社 (東京都千代田区)	産業資材事業 スポーツ・建設資材事業	事務所設備	118,820	-	-
クリヤマジャパン(株)	名古屋支店 (名古屋市中村区)	産業資材事業 スポーツ・建設資材事業	事務所設備	22,048	-	-

(3) 在外子会社

2023年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額 (千円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他 (注1)	合計	
Kuriyama of America, Inc.	Houston支店 (米国テキサス州)	北米事業	事務所及び 物流センター 設備	393,645	61,101	-	25,587	480,334	17 (-)
Accuflex Industrial Hose, Ltd.	本社 (米国 ミシガン州)	"	事務所設備	94,460	18,768	-	5,552	118,780	13 (-)
Kuri Tec Manufacturing, Inc.	ホース工場 (米国 インディアナ州)	"	事務所及び 生産設備	718,052	265,806	8,256 (56,090)	20,069	1,012,185	45 (-)
Piranha Hose Products, Inc.	ホース工場 (米国ミシガン州)	"	事務所及び 生産設備	927,122	1,320,041	81,361 (151,270)	6,891	2,335,416	93 (5)
Kuriyama Canada, Inc.	ホース工場 (カナダ国 オンタリオ州)	"	事務所及び 生産設備	391,212	258,464	17,165 (29,138)	11,041	677,884	65 (7)
Kuri Tec Corporation	本社 (カナダ国 オンタリオ州)	"	事務所設備	22,538	15,304	-	6,407	44,250	17 (2)
Accuflex Industrial Hose, Ltd.	ホース工場 (カナダ国 オンタリオ州)	"	事務所及び 生産設備	377,464	369,728	70,411 (27,920)	4,498	822,102	63 (4)
Técnicas e Ingeniería de Protección, S. A. U.	ホース工場 (スペイン バルセロナ)	欧州・南米事業	事務所及び 生産設備	273,369	613,829	-	65,571	952,770	135 (8)
Industrias Quilmes S. A. U.	ホース工場 (アルゼンチン ブエノスアイレス)	"	事務所及び 生産設備	160,815	110,327	15,888 (14,395)	10,907	297,940	57 (-)

(注) 1. 工具、器具及び備品であります。

2. 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は { } 内に年間の平均人員を外数で記載しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修計画は、次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方 法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
Accuflex Industrial Hose, Ltd.	カナダ国 オンタリオ州	北米事業	樹脂ホース製 造設備	64,526	-	自己資金	2023年11月	2024年6月	(注)

(注) 完成後の増加能力は算出することが困難なため記載を省略しております。

(2) 重要な設備の改修

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方 法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
Accuflex Industrial Hose, Ltd.	カナダ国 オンタリオ州	北米事業	樹脂ホース製 造設備	71,724	-	自己資金	2024年4月	2024年12月	(注)

(注) 完成後の増加能力は算出することが困難なため記載を省略しております。

(3) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	73,600,000
計	73,600,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2024年3月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	22,300,200	22,300,200	東京証券取引所 スタンダード市場	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	22,300,200	22,300,200	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年1月1日	11,150,100	22,300,200	—	783,716	—	737,400

(注) 2019年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行い、発行済株式総数が11,150千株増加しております。

(5) 【所有者別状況】

2023年12月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）							単元未満株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数（人）	-	15	22	86	86	5	5,651	5,865	-
所有株式数 (単元)	-	28,260	3,554	47,768	14,747	30	128,538	222,897	10,500
所有株式数の 割合（%）	-	12.68	1.59	21.43	6.62	0.01	57.67	100.00	-

(注) 自己株式2,504,286株は、「個人その他」に25,042単元、「単元未満株式の状況」に86株含まれております。なお、期末日現在の実質的な所有株式数は2,504,286株であります。

(6) 【大株主の状況】

2023年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式（自己 株式を除く。）の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
栗山 博司	京都府亀岡市	1,492	7.53
NOK株式会社	東京都港区芝大門1丁目12-15	1,095	5.53
クリヤマホールディングス従業員持株会	大阪市中央区城見1丁目3-7	695	3.51
クリエイト合同会社	京都府亀岡市篠町王子稲葉26	600	3.03
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	東京都中央区晴海1丁目8-12	577	2.91
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	491	2.48
株式会社オーハシテクニカ	東京都港区虎ノ門4丁目3-13	400	2.02
クリヤマホールディングス取引先持株会	大阪市中央区城見1丁目3-7	399	2.01
タイガースポリマー株式会社	大阪府豊中市新千里東町1丁目4-1	386	1.95
イーグル工業株式会社	東京都港区芝大門1丁目12-15	360	1.82
計	-	6,498	32.82

(注) 所有株式数及び発行済株式総数（自己株式を除く。）に対する所有株式数の割合は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2023年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,504,200	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 19,785,500	197,855	—
単元未満株式	普通株式 10,500	—	—
発行済株式総数	22,300,200	—	—
総株主の議決権	—	197,855	—

(注) 1 株式会社日本カストディ銀行 (信託E口) が所有する当社株式199,800株 (議決権の数1,998個) につきましては、「完全議決権株式 (その他)」に含めて表示しております。なお、当該議決権の数1,998個は、議決権不行使となっております。

2 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式86株が含まれています。

② 【自己株式等】

2023年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
(自己保有株式) クリヤマ ホールディングス(株)	大阪市中央区城見 1丁目3番7号	2,504,200	—	2,504,200	11.23
計	—	2,504,200	—	2,504,200	11.23

(注) 当連結会計年度末現在の自己株式数は2,504,286株であります。なお、株式会社日本カストディ銀行 (信託E口) が所有する当社株式199,800株 (議決権の数1,998個) は、上記自己株式に含まれておりません。

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

当社は、2018年3月28日開催の第78期定時株主総会決議に基づき、中長期的な業績向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的とし、業績連動型株式報酬制度「株式給付信託 (BBT (=Board Benefit Trust))」を導入しております。

1. 株式給付信託 (BBT) の概要

当社は、当社及び一部国内子会社の国内居住の役員に役位及び業績達成度等により定まるポイントを付与し、一定の条件により受給権を取得したときに当該付与ポイントに相当する当社株式等を給付します。

グループ対象役員が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として退任時となります。

グループ対象役員に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

2. 株式給付信託 (BBT) が当社株式を取得する予定の株式総数又は総額

本制度の導入に伴い、2018年5月30日より株式会社日本カストディ銀行 (信託E口) が、当社株式300,000株を取得しております。

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額 (付帯する費用の金額を除く。) により、純資産の部に自己株式として計上しております。当連結会計年度における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、2億25百万円及び199,800株であります。

3. 株式給付信託 (BBT) による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

当社の取締役 (監査等委員である取締役、それ以外の取締役のうち社外取締役である者及び海外居住者を除きます。) 及び当社の一部国内子会社の取締役 (社外取締役及び海外居住者を除きます。) (以下、「グループ対象役員」といいます。)

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (千円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (—)	—	—	—	—
保有自己株式数	2,504,286	—	2,504,286	—

(注) 1 当期間における保有自己株式数は、2024年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

2 「保有自己株式数」には、株式会社日本カストディ銀行（信託E口）が保有する当社株式199千株は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、長期的かつ安定的株主づくりが最重要課題の一つとして認識し、経営成績の状況と内部留保のバランスも配慮しながら、株主への利益配当を継続的に実施することを基本方針としております。この基本方針を具現化するため、経営成績、財政状態、投資計画等を総合的に勘案したうえで、連結配当性向30%以上を目標といたします。また、安定的な配当を継続する観点から、株主資本配当率（DOE）2.5%を目安といたします。

当期につきましては、連結売上高が上場来最高を達成し、固定資産売却に伴う利益の計上や当社の財政状態等を総合的に勘案した結果、期末の1株当たり普通配当を前期に比べて1株15円増配の40円とし、これに特別配当5円を加えまして1株につき45円と決定しました。尚、期末配当金として剰余金の配当を実施する際の決定機関は株主総会です。

また、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨（取締役会の決議により、毎年6月30日を基準として中間配当金として剰余金の配当を実施する旨）を定款に定めており、2024年度より中間配当を実施する予定です。

当社としては、今後も経営成績向上を通じ利益配当の一層の充実に努めてまいります。内部留保資金の使途につきましては、今後の事業展開への備えとして投入していくこととしております。

当期を基準とする剰余金の配当の株主総会の決議年月日は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
2024年3月28日 定時株主総会決議	890,816	45

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

※コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、約85年の歴史で培った技術と信頼を下に、「顧客の信頼をもとに、たゆまなく発展する会社」の経営理念の実践によって、株主、顧客、地域社会、全従業員との良好な信頼関係を築き、環境、安全のコンセプトを守りながら社会的貢献に努めてまいります。また、株主重視の考えをベースに企業価値の最大化を目指し、迅速かつ適切な意思決定を可能とする体制構築を推進する一方、コンプライアンス及びガバナンスの強化に努め、全てのステークホルダーに対して経営責任を果たしていくことをコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方としております。そのためには、経営の効率性・健全性・透明性が不可欠であると認識しており、今後ともコーポレート・ガバナンスの強化に努めてまいります。

① 企業統治の体制

・企業統治の体制の概要

当社は監査等委員会設置会社を採用し、構成員の過半数を社外取締役とする監査等委員会を設置しております。これにより取締役会の監督機能を強化するとともに、経営における監督と執行の分離を図り、コーポレート・ガバナンスの更なる充実に努めております。

各機関の概要は次の通りです。

(取締役会)

取締役会は、取締役4名（監査等委員である者を除く。）と監査等委員である取締役3名の計7名で構成されており、監査等委員である取締役のうち2名は社外取締役となっております。取締役会は、定時取締役会に加え、必要に応じ随時追加開催しており、経営、業務執行について十分な審議と決定の迅速化を行い、同時に監査等委員である取締役も出席して決議に加わり業務執行の監督を行うこととしております。なお、当社は事業年度ごとの経営責任の明確化をはかるため、取締役（監査等委員である者を除く。）の任期を1年としております。監査等委員である取締役の任期は2年としております。

(監査等委員会)

監査等委員会は、社内取締役1名、社外取締役2名の合計3名で構成され、監査等委員は、定時取締役会をはじめとする重要な会議に出席し、意見表明を行い、取締役の職務遂行の監督を行うこととしております。また、監査等委員会は、あらかじめ年間スケジュールを決め定期的に開催し、また必要に応じ都度開催いたします。

(グループ経営会議)

代表取締役CEO、取締役（社外取締役を除く。）及び執行役員並びに重要事業会社の社長が出席するグループ経営会議を年4回開催し、グループの経営方針の共有及びグループとしての経営課題の協議を行うこととしております。また、重要な事業会社における業務遂行に関する事項については、当社取締役及び事業会社各部門責任者が出席する月1回の事業会社の経営会議において、個々の経営課題を協議し、経営の効率性の改善・向上を図っております。

(監査部)

代表取締役CEO直属の独立した組織として監査部を設置し、当社及び関係会社に対し規程に基づいた体系的・合理的な内部監査が実施されております。なお、監査の実施にあたり、監査等委員会と会計監査人と連携を図り、経営組織の改善・改革に資するよう心がけております。

各機関の構成員は以下のとおりです。（議長、委員長を◎で表示）

役職名	氏名	取締役会	監査等委員会	グループ 経営会議
代表取締役CEO 社長執行役員	小貫 成彦	◎		◎
取締役 上席執行役員	大村 暢彦	○		○
取締役 執行役員	元木 雄三	○		○
取締役 執行役員	ブライアン ダットン	○		○
取締役（監査等委員）	花房 一郎	○	◎	○
社外取締役（監査等委員）	酒谷 佳弘	○	○	
社外取締役（監査等委員）	齋藤 友紀	○	○	
執行役員	山本 正之			○
執行役員	吉住 理			○
執行役員	グレッグ・エストン			○
執行役員	ジャンカルロ・パリス			○

・取締役会の活動状況

当事業年度におきましては、取締役会を15回開催しており、各取締役の出席状況は以下のとおりであります。

役職	氏名	開催回数	出席回数（出席率）
代表取締役CEO 社長執行役員	小貫 成彦	15回	15回（100%）
取締役 上席執行役員	大村 暢彦	15回	15回（100%）
取締役 執行役員（注）	元木 雄三	11回	11回（100%）
取締役 執行役員（注）	ブライアン ダットン	11回	11回（100%）
取締役（監査等委員）	宮地 久人	15回	15回（100%）
社外取締役（監査等委員）	七山 聖學	15回	15回（100%）
社外取締役（監査等委員）	酒谷 佳弘	15回	15回（100%）

（注）2023年3月28日開催の第83回定時株主総会において新たに就任しており、開催回数は就任後の期間に係るものであります。

当事業年度の取締役会の主な決議事項及び報告事項は次のとおりであります。

決議事項	株主総会に関する事項	株主総会の招集・提出議案など
	経営の基本事項	中期経営計画、利益計画、投資計画、など
	規定・規則改定に関する事項	「組織規程」、「国内出張旅費規程」等の改定など
	財産に関する事項	不動産譲渡契約承認、政策保有株式の検証など
	株式に関する事項	株主優待制度廃止の承認
	役員に関する事項	取締役候補者の選任など
	関係会社に関する事項	子会社取締役の選任、子会社からの配当額、子会社による設備投資など
	決算に関する事項	事業報告及び計算書類並びに附属明細書、連結計算書類、有価証券報告書、四半期報告書、決算情報開示の承認など
報告事項	重要な業務執行に関する事項	会計監査人との監査契約の承認など
	重要な業務執行に関する報告	取締役会の決議事項の執行経過並びに結果など

- ・現状の企業統治体制を採用する理由
株主、取引先、地域社会、ステークホルダーからの信頼に込め続けるために、経営の透明性を高め、また適切・迅速な意思決定を図るべく、当社の企業統治体制として監査等委員会設置会社を採用しております。
- ・内部統制システムの整備の状況
法令、規則並びに企業倫理の遵守を徹底するために「クリヤマグループ企業行動規範」を制定し、当社及びグループ会社の役員・社員一人ひとりが社会規範に適合した行動の実践を図っております。特に関連法規の遵守（コンプライアンス）につきましては、「コンプライアンス規程」を制定し、管理責任者を設け、コンプライアンスの構築、維持、整備に当たり、日頃からコンプライアンスについて注意を払い、全社員の意識の向上にも努力しております。また、法令遵守上疑義のある行為等について、使用人が直接通報を行う手段を確保するとともに、通報者の希望により匿名性を保障し通報者に不利益がない旨を規定する「内部公益通報」の体制や制度を整備しております。なお、重要な法務・税務等に係る事象については、都度、弁護士、税理士等、外部の専門家の意見を聴取し、必要な助言・指導を受けて適正・的確な対応を心がけております。
- ・リスク管理体制の整備の状況
当社及び当社グループ全体のリスク管理体制を強化（発生するリスクを最小化）することを目的に、代表取締役CEOを議長とするグループ経営会議を設け、当社グループ内で定期的に想定される経営上のリスクの洗い出しとその評価・対応について協議していくことを検討し、当社及び当社グループ全体の健全性及び信頼性の確保に努めております。
- ・提出会社の子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況
当社は、クリヤマグループ企業行動規範を定め、子会社のコンプライアンス強化に努めております。また、当社から子会社の役員を選任し重要事項については当社の事前承認を得るよう規定を定める等、子会社の業務執行状況を随時確認・指導し、その適正を確保するための体制整備に努めております。
- ・責任限定契約の内容の概要
当社社外取締役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、同法第425条第1項が定める最低責任限度額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。
- ・役員等賠償責任保険契約の内容の概要
当社および国内子会社の取締役、執行役員、一部の使用人を被保険者として、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、株主や第三者等から損害賠償を提起された場合において、被保険者が負担することになる損害賠償金・訴訟費用等の損害を当該保険契約により填補することとしております。ただし、被保険者が法令等に違反することを認識しながら行った行為等に起因する損害は填補されません。なお、すべての被保険者についてその保険料を当社が全額負担しております。当該保険契約の保険期間は2025年1月1日までですが、同程度の内容で更新することを予定しております。

②取締役に関する事項

イ. 取締役の定数

当社は、取締役（監査等委員である者を除く。）の定数を6名以内、監査等委員である取締役の定数を4名以内とする旨定款に定めております。

ロ. 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、取締役の選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

③取締役会にて決議することができる株主総会決議事項

イ 自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、機動的な資本政策を遂行できるよう、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

ロ 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定に基づき、機動的な配当政策を遂行できるよう、取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

ハ 取締役等の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）及び監査等委員会設置会社移行前に監査役であったものの損害賠償責任を法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。これは取締役等が職務遂行するにあたり、期待される役割を十分に発揮できるようにするためであります。

④株主総会決議事項

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

① 役員一覧

男性 6名 女性 1名 (役員のうち女性の比率 14.3%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
代表取締役 CEO 社長執行役員	小貫 成彦	1966年1月15日生	1991年4月 当社入社 2013年1月 クリヤマ(株)(現クリヤマジャパン(株)、以下同じ)建設資材営業部長 2014年1月 クリヤマ(株)建設資材営業部長兼スポーツ・フロア事業部副部長 2015年4月 クリヤマ(株)執行役員建設資材営業部長兼スポーツ・フロア事業部副部長 2016年1月 クリヤマ(株)執行役員スポーツ・建設資材営業部長兼工務・技術部長 2017年3月 クリヤマ(株)取締役営業本部副本部長兼スポーツ・建設資材営業部長兼工務・技術部長に就任 2018年1月 クリヤマ(株)取締役営業本部部長兼工務・技術部長 2018年3月 当社取締役に就任 2018年4月 当社取締役上席執行役員に就任 2019年1月 クリヤマ(株)常務取締役営業本部部長に就任 2020年3月 当社取締役常務執行役員に就任 2022年8月 当社代表取締役CEO社長執行役員〔現任〕 クリヤマジャパン株式会社代表取締役社長兼営業本部長 2024年1月 クリヤマジャパン株式会社代表取締役社長に就任〔現任〕	(注) 3	22,506
取締役 上席執行役員	大村 暢彦	1971年12月20日生	2000年4月 アイコット(株)(現(株)アイコットリョーワ)入社 2003年1月 愛和陶(広東)陶磁有限公司 セメント製品部長 2004年7月 佛山市樂華陶磁有限公司 総経理 2007年1月 愛楽(佛山)建材貿易有限公司 総経理 2013年3月 (株)アイコットリョーワ 取締役〔現任〕 2017年3月 愛楽(佛山)建材貿易有限公司 董事長・総経理〔現任〕 2018年3月 当社取締役 2023年3月 当社取締役 上席執行役員(海外統括)に就任〔現任〕	(注) 3	18,000
取締役 執行役員	元木 雄三	1960年9月12日生	2012年11月 株式会社三菱東京UFJ銀行 (現株式会社三菱UFJ銀行)より出向受入 2013年11月 クリヤマ株式会社(現クリヤマジャパン株式会社、以下同じ)に転籍入社 クリヤマ株式会社東京支社副支社長 2014年4月 当社総務グループ長 クリヤマ株式会社執行役員管理本部副本部長兼総務部長 2015年3月 クリヤマ株式会社取締役管理本部部長兼総務部長 2015年4月 当社管理部長 2016年1月 クリヤマ株式会社取締役管理本部部長〔現任〕 2016年3月 当社取締役管理部長 2018年3月 当社執行役員管理部長 2023年3月 当社取締役執行役員管理部長 2024年1月 当社取締役執行役員に就任〔現任〕	(注) 3	20,328
取締役 執行役員	ブライアン ダットン	1967年3月28日生	2002年7月 Kuriyama of America, Inc. 入社 2006年4月 Kuriyama of America, Inc. 取締役 2015年4月 Kuriyama of America, Inc. 取締役副社長 2020年4月 当社執行役員 Kuriyama of America, Inc. 取締役社長〔現任〕 2023年3月 当社取締役 執行役員に就任〔現任〕	(注) 3	-
取締役 (監査等委員) (常勤)	花房 一郎	1961年2月1日生	2006年6月 当社入社 2009年1月 当社経理部長 2012年10月 クリヤマ株式会社(現クリヤマジャパン株式会社、以下同じ)経理部長 2013年4月 クリヤマ株式会社執行役員経理部長 2019年4月 クリヤマ株式会社執行役員 株式会社サンエー常務執行役員 株式会社サンエー常務理事 2023年4月 株式会社サンエー常務理事 2024年3月 当社取締役(監査等委員)に就任〔現任〕	(注) 4	53,876

取締役 (監査等委員) (非常勤)	酒谷 佳弘	1957年3月11日生	1979年10月 日新監査法人（現EY新日本有限責任監査法人）入所 1982年3月 公認会計士登録 1998年8月 センチュリー監査法人（現EY新日本有限責任監査法人）代表社員 2004年7月 ジャパン・マネジメント・コンサルティング株式会社設立 同社代表取締役〔現任〕 2004年7月 株式会社プレサンスコーポレーション監査役 2005年6月 エスアールジータカミヤ株式会社（現株式会社タカミヤ）監査役 2006年2月 北恵株式会社監査役〔現任〕 2008年11月 ノルマ・ジャパン株式会社社会計参与〔現任〕 2010年11月 株式会社ワッツ監査役 2011年3月 SH0-BI株式会社（現粧美堂株式会社）監査役 2015年6月 株式会社プレサンスコーポレーション取締役（監査等委員）〔現任〕 2015年11月 株式会社ワッツ取締役（監査等委員）〔現任〕 2015年12月 SH0-BI株式会社（現粧美堂株式会社）取締役（監査等委員）〔現任〕 2022年3月 当社取締役（監査等委員）に就任〔現任〕 2022年6月 株式会社タカミヤ 取締役（監査等委員）〔現任〕	(注) 4	1,820
取締役 (監査等委員) (非常勤)	齋藤 友紀	1978年11月13日生	2006年10月 弁護士登録 さくら法律事務所 入所 2012年1月 さくら法律事務所 パートナー就任〔現任〕 2015年10月 非常勤裁判官（家事調停官） 2023年6月 岩谷産業株式会社 社外取締役〔現任〕 2024年3月 当社取締役（監査等委員）に就任〔現任〕	(注) 4	-
計					116,530

- (注) 1 取締役酒谷 佳弘氏及び齋藤 友紀氏は、社外取締役であります。
- 2 当社の監査等委員会については、次のとおりであります。
委員長 花房 一郎、委員 酒谷 佳弘、委員 齋藤 友紀
- 3 取締役（監査等委員である取締役を除く）の任期は、2024年3月28日開催の定時株主総会の終結の時から1年間であります。
- 4 監査等委員である取締役の任期は、2024年3月28日開催の定時株主総会の終結の時から2年間であります。
- 5 当社では、業務執行における責任者としての権限と責任を明確にし、取締役会で決定した会社の方針に基づく業務執行に対し、実務レベルにおける迅速性および機動性の向上を図るため、執行役員制度を導入しており、取締役を兼務していない執行役員の総数は4名であります。

② 社外役員の状況

- ・ 当社の社外取締役は、酒谷佳弘氏と齋藤友紀氏の2名であります。
- ・ 当社は、監査等委員会設置会社を採用しております。企業統治において外部からの客観的・中立的な経営監視機能が重要と考えており、社外取締役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているものと判断しております。社外取締役の選任に際しましては、企業経営に関する知識・経験又は専門的な知識・経験を有し、企業経営に対し中立の立場から客観的な助言ができる人材を選任することとしております。
- ・ 当社は、社外取締役の独立性について一律の基準を設けており、株式会社東京証券取引所の有価証券上場規程第436条の2の規程に基づき独立役員を選定し、一般株主の利益保護に努めております。社外取締役2名を同取引所の定めに基づく独立役員として選任し届出しております。
- ・ 当社の社外取締役が独立性を有していると判断されるのは、当該社外取締役が下記のいずれかの項目にも該当しない場合です。
 1. 当社グループ（当社含以下同じ）の業務執行者（※1）
 2. 当社グループ各社を主要な取引先（※2）とする者、法人にあっては業務執行者（※1）
 3. 当社グループ各社の主要な取引先（※2）、法人にあっては業務執行者（※1）
 4. 当社グループ各社から多額の金銭その他の財産（※3）を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家、法人等にあっては業務執行者（※1）
 5. 当社の主要な株主（※4）、法人にあっては業務執行者（※1）
 6. 当社グループの社外役員の当社以外の兼務先（相互就任の関係にある場合）の業務執行者（※1）
 7. 当社が一定額を超える（※5）寄付または助成を行なっている者、法人にあっては業務執行者（※1）
 8. 上記2～7に過去3年間に於いて該当していた者
 9. 上記1～7に該当する者が重要な者（※6）である場合、その者の二親等以内の親族（配偶者含）
 10. その他、上記1～9以外に独立性を疑わせる事項がある場合

注記事項

- ※1 「業務執行者」とは業務執行の取締役、その他使用人等をいう。
- ※2 「主要な取引先」とは、当社を主要な取引先にする者（または会社）についてはその者（または会社）の連結売上高の5%以上当社グループへの売上がある会社をいう。当社グループの主要な取引先は連結売上高の5%以上の売上がある者（または会社）をいう。また、融資取引にあっては当社の連結総資産の2%以上を当社に融資を行なっている者（または会社）をいう。ここでいう連結売上高、連結総資産は直近事業年度の数値による。
- ※3 「多額の金銭その他の財産」は年間1千万円以上の金銭価値をいう。
- ※4 「主要な株主」とは発行済株式（自己株式を含む）の5%以上を保有する株主をいう。
- ※5 「一定額」とは年間1千万円をいう。
- ※6 「重要な者」とは、当社、当社グループ各社、取引先等で役員、部長クラス以上の地位にある者、監査法人にあっては公認会計士、法律事務所にあっては弁護士をいう。
- ・ 社外取締役の酒谷佳弘氏は、EY新日本有限責任監査法人の出身者ではありますが、既に同法人を退職していること、また、公認会計士として独立した活動を行っているため、当社との間に取引関係その他の利害関係はありません。
- ・ 社外取締役の齋藤友紀氏は、弁護士として独立した活動を行っているため、当社との間に取引関係その他の利害関係はありません。

③ 社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査等委員会監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

イ. 監査等委員会と会計監査人の連携状況

各々の監査方針や決算上の課題については、定期的に会合を持ち、報告を受けると共に、必要に応じて往査に立ち会う等、会計監査人と意見交換を行っております。

ロ. 監査等委員会と内部監査部門の連携状況

社長直轄の監査部は、監査等委員会の全社的な調査に際して、その業務を支援しております。また、監査部は年次業務監査等の内部監査結果や社内外の諸情報等を監査等委員会に報告すると共に、相互が効率的に監査を行えるように意見交換を行っております。

ハ. 監査等委員会と会計監査人及び内部監査部門の連携状況

定期的に三様監査会議を開催して、監査方針の確認、監査計画の進捗状況や監査結果等の情報交換や意見交換を行い、効率的な組織的監査を行っております。

(3) 【監査の状況】

①監査等委員会監査の状況

当社の監査等委員会は、常勤監査等委員1名（社内）、監査等委員2名（社外取締役）の3名で構成されております。常勤監査等委員の花房 一郎氏は、内部監査部門と連携し、監査の実効性を高めるとともに、取締役の職務の遂行を適正に監査、監督しております。監査等委員（社外取締役）の酒谷 佳弘氏は、公認会計士としての豊富な知見と経験、財務会計についての高い知見と企業経営者としての経験と幅広い見識を有しております。斎藤 友紀氏は、弁護士としての豊富な知見と経験を有しております。

監査等委員会監査は、策定した監査方針・年度計画に従い、取締役会その他重要な会議に出席するほか、グループ会社への往査や立会を実施して、経営執行状況の適切な監視に努めております。また、会社の内部監査部門（監査部）及び会計監査人と定期的な会合として三様監査会議やグループ監査役との会議を設け、相互に監査計画や実施状況を報告するなど緊密な連携をとって、組織的な監査を実施しております。

監査等委員会は、社外取締役監査等委員への資料等情報提供に努める目的を含み、取締役会に先立ち月次で開催される他、必要に応じて随時開催しております。

なお、当事業年度において監査等委員会を原則月1回開催しており、個々の監査等委員の出席状況については次のとおりです。

氏名	開催回数	出席回数（出席率）
宮地 久人	15	15（100%）
七山 聖學	15	15（100%）
酒谷 佳弘	15	15（100%）

※宮地 久人氏と七山 聖學氏は、2024年3月28日株主総会の終結をもって任期満了により退任しました。

<監査等委員会の具体的な検討事項>

- ・監査方針・監査計画及び業務分担について
- ・取締役職務の執行状況の確認及び関連当事者間取引の確認
- ・内部統制システムの監視・検証について
- ・会計監査人の監査遂行状況及び結果確認並びに選任及び解任・監査報酬について
- ・グループ会社の職務執行及び事業の確認・監査役の聴取について

常勤監査等委員は、取締役会に出席するほか、国内中核事業会社の取締役会等重要な会議への出席や重要な書類の閲覧を行っております。また、グループ会社への往査や監査部の月例会議に出席して報告を受け、取締役会・監査等委員会に報告・協議及び情報交換を行う他、代表取締役等執行役員とコミュニケーションを取っております。会計監査人と内部監査部門（監査部）との三様監査会議やグループ監査役会議を定期的に主催して組織監査の充実に努めております。

社外取締役監査等委員は、取締役会に出席するほか、国内中核事業会社の取締役会に出席し、取締役、グループ会社取締役、常勤監査等委員、監査部その他の使用人等からその職務の執行状況について報告を受けております。また、会計監査人の四半期報告会や三様監査会議の他、役割に応じたその他の会議や往査に出席しております。監査等委員（社外取締役）は、豊富な経験と独立的立場から客観的な意見を形成し、適切な質疑を行い、意見を述べ、取締役会や監査等委員会において決議に参加しております。なお、社外取締役監査等委員は、任意の諮問委員会の委員を兼務しております。

②内部監査の状況

当社グループの内部監査は、独立した組織として設置した監査部（4名）が監査を実施しております。内部監査の実効性を確保するための取組として、監査部は、監査の方針、計画を定め、内部監査規程に基づき、会社の内部統制に関わる部門と連携の上、当社グループにおける業務が法令、社内規程に基づいて、適正かつ効率的に行われていることを評価・モニタリングしております。また、その結果を代表取締役CEOや監査等委員会へ報告するとともに、三様監査会議にて会計監査人とも相互に監査計画や実施状況を報告するなど緊密な連携をとっております。

③会計監査の状況

イ. 業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名

会計監査については、EY新日本有限責任監査法人と監査契約を締結し、監査を受けております。監査証明に係る業務を執行する公認会計士及び監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりとなっております。

所属する監査法人	公認会計士の氏名等		継続監査年数
EY新日本有限責任監査法人	指定有限責任社員 業務執行社員	徳野 大二	5年
	指定有限責任社員 業務執行社員	池内 正文	3年

(注) 1 監査業務に関わる補助者は、公認会計士6名及びその他11名であります。

ロ. 継続監査期間

22年間

ハ. 監査法人の選定方針と理由

当社監査等委員会は、監査法人の独立性や過去の業務実績等について検討するとともに品質管理体制の整備・運用状況等を考慮して職務の遂行が適正に行われることを確認し、会計監査人としてEY新日本有限責任監査法人を選定いたしております。

なお、監査等委員会は会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合には、会計監査人の解任を検討いたします。また、監査等委員会は会計監査人の職務の執行状況等を考慮し、株主総会への会計監査人の解任又は負債人に関する議案の提出の要否を毎期検討いたします。

ニ. 監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する実務指針」を踏まえ、職務の遂行状況や品質管理体制の整備・運用状況、独立性及び専門性、監査等委員会とのコミュニケーション等を評価しております。

④監査公認会計士等に対する報酬の内容

イ. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	42,050	—	42,050	—
連結子会社	—	—	—	—
計	42,050	—	42,050	—

ロ. 監査公認会計士等と同一のネットワーク(Ernst & Young)に対する報酬(イ.を除く)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	—	—	—	—
連結子会社	16,552	2,954	16,836	469
計	16,552	2,954	16,836	469

(注) 連結子会社の非監査業務に基づく報酬は、主に「移転価格税制に関する文書化」に対する報酬であります。

ハ. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

ニ. 監査報酬の決定方針

当社は、当社の事業規模、事業内容及び業務の特性等、並びに法令・規則の改正にともなう処理・手続き変更等を考慮した上で、当社の監査公認会計士等が監査の品質を確保できる監査時間や体制を勘案した監査計画に基づき算定した見積もり提出を受け、協議を行った報酬金額について、監査等委員会の同意を得て決定しております。

ホ. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する実務指針」を踏まえ、監査方法及び監査内容や時間等確認し、審議の結果、会計監査人の報酬等について、同意しております。

(4) 【役員の報酬等】

① 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

イ. 取締役の報酬を決定するにあたっての基本方針その概要は次のとおりとしております。

取締役の報酬は、固定報酬として基本報酬(金銭報酬)、業績連動報酬として役員賞与(金銭報酬)と業績連動型株式報酬(非金銭報酬)及び株価連動型報酬(金銭報酬)で構成しております。

当社は、代表取締役CEO小貫成彦(以下CEO)と独立社外取締役監査等委員で構成する任意の諮問委員会を設置しており、基本報酬及び役員賞与(監査等委員であるものを除く)の決定に対し、CEOが各取締役の役位や役割・責務等を総合的に勘案した案を任意の諮問委員会に諮った後、取締役会でその総額を審議の上、決定しております。なお、個別配分につきましてはCEOに一任されておりますが、その理由は当社全体の業績を俯瞰しつつ各取締役を評価するにはCEOが適任であると判断した為であります。また、業績連動型株式報酬制度「株式給付信託(BBT(=Board Benefit Trust))」及び株価連動型報酬制度「ファントム・ストック(PS(=Phantom Stock Plan))」を導入しており、各々の規程に基づきその支給額を決定しております。

なお、取締役の業績連動報酬の決定に使用する連動指標は、連結売上高、連結営業利益、連結経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益を使用しており、その理由は会社成長性や成長投資や株主還元の出発点として分かりやすい指標であるためです。なお、連動指標について2023年度の目標と実績(達成率)は以下のとおりです。

指 標	目 標	実績(達成率)
連結売上高	710億円	716億72百万円(109.5%)
連結営業利益	42億円	39億71百万円(94.5%)
連結経常利益	46億円	45億20百万円(98.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	33億円	37億93百万円(114.9%)

監査等委員である取締役の報酬は、監査等委員会の協議により決定しております。なお、取締役監査等委員の賞与については、第81期より支給しないことを監査等委員会で決議しています。

(A). 業績連動型株式報酬制度(株式給付信託:BBT)

a. 業績連動型株式報酬制度(BBT)の概要

当社及び一部国内子会社の国内居住の役員に役位及び業績目標達成度等により定まるポイントを付与し、一定の条件により受給権を取得したときに当該付与ポイントに相当する当社株式等を給付します。グループ対象役員が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として退任時となります。グループ対象役員に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

b. 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付帯する費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当連結会計年度における当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、2億25百万円及び199,800株であります。

(B). 株価連動型報酬制度(PS)

a. 株価連動型報酬制度(PS)の概要

当社及び一部海外子会社の海外居住の役員に対して行う当社及び海外子会社の業績目標達成度等に応じた株式価値に連動したインセンティブ報酬制度です。退任時に金銭として支給されます。

b. 株価連動型報酬制度(PS)の総額

対象となる役員に業績達成度等に応じたポイントを付与し、退任時に累積ポイントから換算した付与仮想当社普通株式数に退任時の株価を乗じた金額となります。

ロ. 当社の取締役(監査等委員を除く)の報酬限度額は、2016年3月24日開催の第76回定時株主総会において年額180,000千円以内と決議されております。(ただし使用人兼務取締役の使用人分の給与は含まない。また株式報酬を含まない。)なお、当該決議時の取締役(監査等委員会の取締役を除く)の員数は8名であり、定款上の取締役は9名以内です。

ハ. 当社の取締役(監査等委員)の報酬限度額は、2016年3月24日開催の第76回定時株主総会において年50,000千円以内と決議されております。なお、当該決議時の監査等委員の取締役の員数は4名であり、定款上の監査等委員の取締役は4名以内です。

② 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	会社区分	報酬等の 総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)				対象とな る役員の 員数 (人)
			金銭報酬			非金銭 報酬	
			固定報酬	業績連動報酬			
			基本報酬	賞与	株価連動 報酬	株式報酬	
取締役 (監査等委員を除く) (社外取締役を除く)	当社	155	60	29	19	46	4
	クリヤマ ジャパン 株	26	18	7	-	-	2
	KOA	30	25	4	-	-	1
取締役 (監査等委員) (社外取締役を除く)	当社	18	18	-	-	-	1
社外取締役	当社	10	10	-	-	-	2

(注) 1. 上記中のKOAは、Kuriyama of America, Inc.を示します。

2. 上記中のクリヤマジャパン株、KOAは当社の取締役が兼務している子会社からの報酬額を示します。

3. 提出会社の役員ごとの報酬額の総額等連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

4. 株価連動報酬と株式報酬は、連結損益計算書に計上した会計上の費用計上額であります。

(5) 【株式の保有状況】

①投資株式の区分の基準及び考え方

株式の保有につきましては、政策投資を目的として保有しており、純投資を目的としての保有はしていません。

②保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

政策保有株式の保有に関しては、当社グループの中長期的かつ持続的成長のための取引関係の維持強化という目的で基本方針を定め、新規保有及び保有の継続について、取締役会で決議を行うこととしております。

また、定期的に、株式発行企業との取引関係状況、発行企業の業績・業績見込み、株主への利益還元状況等を検証し、個別に株式保有の合理性を判断することとしており、2024年1月17日開催の取締役会にてその合理性の検証を行い、当社グループ事業の中長期的な持続的成長に対する寄与及び保有の合理性が認められる先については、保有継続することで決議しました。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額 (千円)
非上場株式	2	1,482
非上場株式以外の株式	22	1,377,993

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額 (千円)	株式数の増加の理由
非上場株式以外の株式	9	10,562	取引関係の維持・強化を目的として取引先持株会で定期買付をしております。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額 (千円)
非上場株式以外の株式	—	—

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報
特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数 (株)	株式数 (株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
NOK株	177,512	176,373	(保有目的) 産業資材事業の販売拡大を 目的に仕入取引関係の維持・強化し、安 定的に製品を確保する為。 (株式数が増加した理由) 仕入取引関係 の維持・強化を目的として取引先持株会 で定期買付 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果 については、個別の取引内容等を踏まえ た評価となり、秘密保持の必要性から記 載していませんが、産業資材事業の売上 と発展に寄与しています。(注) 1	有
	333,988	207,062		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
㈱オーハシテクニカ	127,742	126,828	(保有目的) 産業資材事業の販売拡大を 目的に販売取引関係の維持・強化を図る 為。 (株式数が増加した理由) 販売取引関係 の維持・強化を目的として取引先持株会 で定期買付 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果 については、個別の取引内容等を踏まえ た評価となり、秘密保持の必要性から記 載していませんが、産業資材事業の売上 と発展に寄与しています。(注) 1	有
	233,386	177,941		
イーグル工業㈱	127,000	127,000	(保有目的) 産業資材事業の販売拡大を 目的に仕入取引関係の維持・強化し、安 定的に製品を確保する為。 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果 については、個別の取引内容等を踏まえ た評価となり、秘密保持の必要性から記 載していませんが、産業資材事業の売上 と発展に寄与しています。(注) 1	有
	203,200	136,144		
タイガースポリマー ㈱	158,523	155,970	(保有目的) 産業資材事業及び北米資材 事業の販売拡大を目的に仕入取引関係の 維持・強化し、安定的に製品を確保する 為。 (株式数が増加した理由) 仕入取引関係 の維持・強化を目的として取引先持株会 で定期買付 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果 については、個別の取引内容等を踏まえ た評価となり、秘密保持の必要性から記 載していませんが、産業資材事業及び北 米資材事業の売上と発展に寄与してい ます。(注) 1	有
	137,122	62,700		
㈱ビジネスブレイン 太田昭和	40,000	40,000	(保有目的) 情報システム強化とシステ ム運用の安定化を図る為 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果 については、個別の取引内容等を踏まえ た評価となり、秘密保持の必要性から記 載していませんが、産業資材事業及びス ポーツ・建設資材事業の発展に貢献して います。(注) 1	有
	87,280	74,200		
㈱三菱UFJフィナ ンシャル・グループ	38,400	38,400	(保有目的) 産業資材事業、スポーツ・ 建設資材事業、北米事業及び欧州・南米 事業の販売拡大を目的に事業用資金を円 滑に調達すべく、財務取引関係の維持・ 強化を図る為。 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果 については、個別の取引内容等を踏まえ た評価となり、秘密保持の必要性から記 載していませんが、産業資材事業、スポ ーツ・建設資材事業、北米事業及び欧 州・南米事業の発展及び事業継続に寄与 しています。(注) 1	有 (注) 2
	46,521	34,137		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
木村化工機㈱	58,900	58,900	<p>(保有目的) 産業資材事業の販売拡大を目的に将来的に販売又は仕入取引関係が期待できる為。</p> <p>(定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、同社と当社連結子会社はプラント系事業を営んでいることから将来的に販売又は仕入取引関係の発展に繋がる事が期待されます。(注)1</p>	有
	44,057	42,702		
三菱重工業㈱	4,444	4,411	<p>(保有目的) 産業資材事業の販売拡大を目的に販売取引関係の維持・強化を図る為。</p> <p>(株式数が増加した理由) 販売取引関係の維持・強化を目的として取引先持株会で定期買付</p> <p>(定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、産業資材事業の売上と発展に寄与しています。(注)1</p>	無
	36,623	23,087		
㈱UACJ	9,106	8,376	<p>(保有目的) スポーツ・建設資材事業の販売拡大を目的に販売取引関係の維持・強化を図る為。</p> <p>(株式数が増加した理由) 販売取引関係の維持・強化を目的として取引先持株会で定期買付</p> <p>(定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、スポーツ・建設資材事業の売上と発展に寄与しています。(注)1</p>	無
	35,058	18,579		
井関農機㈱	30,000	30,000	<p>(保有目的) 産業資材事業の販売拡大を目的に販売取引関係の維持・強化を図る為。</p> <p>(定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、産業資材事業の売上と発展に寄与しています。(注)1</p>	有
	32,430	35,160		
東ソー㈱	18,000	18,000	<p>(保有目的) 産業資材事業の販売拡大を目的に販売取引関係の維持・強化を図る為。</p> <p>(定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、産業資材事業の売上と発展に寄与しています。(注)1</p>	無
	32,418	28,260		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
㈱いよぎんホールディングス	32,000	32,000	(保有目的) 産業資材事業及びスポーツ・建設資材事業の販売拡大を目的に事業用資金を円滑に調達すべく、財務取引関係の維持・強化を図る為。 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、産業資材事業及びスポーツ・建設資材事業の発展及び事業継続に寄与しています。(注)1	有
	30,310	22,624		
㈱三井住友フィナンシャルグループ	3,961	3,961	(保有目的) 産業資材事業、スポーツ・建設資材事業、北米事業及び欧州・南米事業の販売拡大を目的に事業用資金を円滑に調達すべく、財務取引関係の維持・強化を図る為。 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、産業資材事業及びスポーツ・建設資材事業、北米事業、欧州・南米事業の発展及び事業継続に寄与しています。(注)1	有 (注)2
	27,251	20,977		
㈱大林組	15,000	15,000	(保有目的) スポーツ・建設資材事業の販売拡大を目的に販売取引関係の維持・強化を図る為。 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、スポーツ・建設資材事業の売上と発展に寄与しています。(注1)	無
	18,300	14,970		
A G C(株)	3,412	3,385	(保有目的) 産業資材事業の販売拡大を目的に販売取引関係の維持・強化を図る為。 (株式数が増加した理由) 販売取引関係の維持・強化を目的として取引先持株会で定期買付 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、産業資材事業の発展に寄与しています。(注)1	無
	17,870	14,878		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
㈱みずほフィナンシャルグループ	7,000	7,000	(保有目的) 産業資材事業、スポーツ・建設資材事業、北米事業及び欧州・南米事業の販売拡大を目的に事業用資金を円滑に調達すべく、財務取引関係の維持・強化を図る為。 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、産業資材事業、スポーツ・建設資材事業、北米事業及び欧州・南米事業の発展及び事業継続に寄与しています。(注) 1	有 (注) 2
	16,887	12,992		
㈱クボタ	7,285	6,295	(保有目的) 産業資材事業の販売拡大を目的に販売取引関係の維持・強化を図る為。 (株式数が増加した理由) 販売取引関係の維持・強化を目的として取引先持株会で定期買付 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、産業資材事業の売上と発展に寄与しています。(注) 1	無
	15,462	11,438		
㈱百十四銀行	3,900	3,900	(保有目的) 産業資材事業及びスポーツ・建設資材事業の販売拡大を目的に事業用資金を円滑に調達すべく、財務取引関係の維持・強化を図る為。 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、産業資材事業及びスポーツ・建設資材事業の発展及び事業継続に寄与しています。(注) 1	有
	9,383	7,460		
東亜建設工業㈱	1,666	1,588	(保有目的) スポーツ・建設資材事業の販売拡大を目的に販売取引関係の強化を図る為。 (株式数が増加した理由) 販売取引関係の維持・強化を目的として取引先持株会で定期買付 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、スポーツ・建設資材事業の発展に寄与しています。(注) 1 (注) 3	無
	5,931	3,770		
コーアツ工業㈱	4,800	4,800	(保有目的) スポーツ・建設資材事業の販売拡大を目的に販売取引関係の維持・強化を図る為。 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、スポーツ・建設資材事業の売上と発展に寄与しています。 (注) 1	有
	5,611	4,915		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
㈱池田泉州ホールディングス	16,280	16,280	(保有目的) 産業資材事業及びスポーツ・建設資材事業の販売拡大を目的に事業用資金を円滑に調達すべく、財務取引関係の維持・強化を図る為。 (定量的な保有効果) 定量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、産業資材事業及びスポーツ・建設資材事業の発展及び事業継続に寄与しています。(注)1	有 (注)2
	5,258	4,118		
イオンモール㈱	2,054	1,674	(保有目的) スポーツ・建設資材事業の販売拡大を目的に販売取引関係の維持・強化を図る為。 (株式数が増加した理由) 販売取引関係の維持・強化を目的として取引先持株会で定期買付 (定量的な保有効果) 量的な保有効果については、個別の取引内容等を踏まえた評価となり、秘密保持の必要性から記載していませんが、スポーツ・建設資材事業の売上と発展に寄与しています。 (注)1	無
	3,640	2,854		

- (注) 1. 当社は保有株式について配当・取引額等に加え、経営戦略上の重要性や事業上の関係等を総合的に判断し保有しています。
2. ㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ、㈱三井住友フィナンシャルグループ、㈱みずほフィナンシャルグループ、㈱池田泉州ホールディングスは、同社子会社が当社株式を保有しております。
3. 2024年3月28日現在で売却済であります。

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（1976年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（2023年1月1日から2023年12月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（2023年1月1日から2023年12月31日まで）の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容や変更等を適切に把握し対応するために、監査法人との綿密な連携並びに情報の共有化に加え、監査法人及び各種関係機関が主催する会計や税務に関するセミナーへの参加や、専門誌の購読等、必要な対応を図っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,448,238	7,440,147
受取手形、売掛金及び契約資産	※4, ※5 10,188,854	※4, ※5 9,238,818
電子記録債権	※4 1,255,419	※4 1,395,493
商品及び製品	17,158,079	18,428,996
仕掛品	701,927	677,364
原材料及び貯蔵品	4,382,009	3,901,542
その他	887,261	1,350,950
貸倒引当金	△76,526	△92,080
流動資産合計	41,945,264	42,341,232
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※3 12,060,220	※3 12,049,941
減価償却累計額	△5,253,765	△5,383,893
建物及び構築物（純額）	6,806,454	6,666,048
機械装置及び運搬具	12,476,271	14,029,736
減価償却累計額	△9,310,207	△10,587,270
機械装置及び運搬具（純額）	3,166,063	3,442,466
土地	※3 1,339,340	※3 998,730
建設仮勘定	585,858	682,379
その他	2,661,387	2,757,357
減価償却累計額	△2,243,844	△2,290,564
その他（純額）	417,543	466,793
有形固定資産合計	12,315,260	12,256,417
無形固定資産		
のれん	15,544	9,486
その他	582,265	575,327
無形固定資産合計	597,810	584,814
投資その他の資産		
投資有価証券	※2, ※3 5,867,663	※2, ※3 6,888,840
出資金	※2 601,158	※2 652,627
差入保証金	431,681	482,637
長期貸付金	1,036	47,473
繰延税金資産	675,560	704,364
その他	490,418	596,127
貸倒引当金	△16,726	△16,726
投資その他の資産合計	8,050,791	9,355,343
固定資産合計	20,963,862	22,196,574
資産合計	62,909,126	64,537,807

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※3, ※4 7,235,220	※3, ※4 6,558,392
電子記録債務	2,406,220	2,469,300
短期借入金	※3 7,068,643	※3 3,864,716
1年内返済予定の長期借入金	※3 1,900,079	※3 1,534,692
未払法人税等	553,020	482,738
工事損失引当金	3,490	37,001
役員賞与引当金	111,254	74,601
賞与引当金	96,426	99,557
その他	※6 2,689,386	※6 2,953,564
流動負債合計	22,063,742	18,074,562
固定負債		
長期借入金	※3 3,514,466	※3 2,899,978
リース債務	948,586	1,238,656
繰延税金負債	676,002	1,147,172
役員退職慰労引当金	177,596	225,692
役員株式給付引当金	199,365	294,162
退職給付に係る負債	784,705	790,058
資産除去債務	20,892	20,892
その他	208,682	186,477
固定負債合計	6,530,298	6,803,091
負債合計	28,594,041	24,877,653
純資産の部		
株主資本		
資本金	783,716	783,716
資本剰余金	973,438	973,438
利益剰余金	30,189,835	33,048,667
自己株式	△1,946,022	△1,934,522
株主資本合計	30,000,967	32,871,300
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	332,004	663,796
為替換算調整勘定	3,929,614	6,075,007
退職給付に係る調整累計額	16,534	11,537
その他の包括利益累計額合計	4,278,153	6,750,341
非支配株主持分	35,964	38,512
純資産合計	34,315,085	39,660,154
負債純資産合計	62,909,126	64,537,807

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
売上高	71,475,868	71,672,990
売上原価	※1,※3 50,881,664	※1,※3 50,472,285
売上総利益	20,594,203	21,200,705
販売費及び一般管理費	※2,※3 16,034,139	※2,※3 17,229,575
営業利益	4,560,064	3,971,130
営業外収益		
受取利息	65,422	183,890
受取配当金	57,484	50,150
受取家賃	55,806	55,806
為替差益	—	28,742
持分法による投資利益	475,748	648,589
その他	82,603	69,261
営業外収益合計	737,065	1,036,441
営業外費用		
支払利息	143,271	319,580
手形売却損	13,842	11,636
債権売却損	22,587	24,714
為替差損	85,003	—
正味貨幣持高に関する損失	56,244	126,465
その他	4,767	4,649
営業外費用合計	325,716	487,046
経常利益	4,971,413	4,520,525
特別利益		
固定資産売却益	※4 399	※4 1,412,337
投資有価証券売却益	10,881	—
受取保険金	80,353	—
特別利益合計	91,635	1,412,337
特別損失		
固定資産除却損	※5 4,964	※5 4,981
固定資産売却損	※6 22,003	—
減損損失	—	※7 33,369
特別損失合計	26,967	38,350
税金等調整前当期純利益	5,036,081	5,894,512
法人税、住民税及び事業税	1,422,051	1,734,190
法人税等調整額	△24,390	365,137
法人税等合計	1,397,661	2,099,327
当期純利益	3,638,419	3,795,184
非支配株主に帰属する当期純利益	1,214	1,709
親会社株主に帰属する当期純利益	3,637,204	3,793,475

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
当期純利益	3,638,419	3,795,184
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△26,378	310,514
繰延ヘッジ損益	4,570	—
為替換算調整勘定	2,570,137	2,107,904
退職給付に係る調整額	45,657	△4,997
持分法適用会社に対する持分相当額	28,175	58,766
その他の包括利益合計	※ 2,622,162	※ 2,472,188
包括利益	6,260,582	6,267,372
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	6,259,367	6,265,663
非支配株主に係る包括利益	1,214	1,709

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	783,716	973,438	26,888,911	△2,031,712	26,614,353
超インフレの調整額			158,617		158,617
超インフレの調整額を反映した当期首残高	783,716	973,438	27,047,528	△2,031,712	26,772,970
当期変動額					
剰余金の配当			△494,897		△494,897
親会社株主に帰属する当期純利益			3,637,204		3,637,204
自己株式の処分				85,690	85,690
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	3,142,306	85,690	3,227,996
当期末残高	783,716	973,438	30,189,835	△1,946,022	30,000,967

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	362,896	△4,570	1,326,787	△29,122	1,655,990	34,716	28,305,060
超インフレの調整額							158,617
超インフレの調整額を反映した当期首残高	362,896	△4,570	1,326,787	△29,122	1,655,990	34,716	28,463,678
当期変動額							
剰余金の配当							△494,897
親会社株主に帰属する当期純利益							3,637,204
自己株式の処分							85,690
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△30,892	4,570	2,602,827	45,657	2,622,162	1,247	2,623,410
当期変動額合計	△30,892	4,570	2,602,827	45,657	2,622,162	1,247	5,851,407
当期末残高	332,004	—	3,929,614	16,534	4,278,153	35,964	34,315,085

当連結会計年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	783,716	973,438	30,189,835	△1,946,022	30,000,967
超インフレの調整額			△340,765		△340,765
超インフレの調整額を反映した当期首残高	783,716	973,438	29,849,069	△1,946,022	29,660,202
当期変動額					
剰余金の配当			△593,877		△593,877
親会社株主に帰属する当期純利益			3,793,475		3,793,475
自己株式の処分				11,500	11,500
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	－	3,199,597	11,500	3,211,098
当期末残高	783,716	973,438	33,048,667	△1,934,522	32,871,300

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	332,004	－	3,929,614	16,534	4,278,153	35,964	34,315,085
超インフレの調整額							△340,765
超インフレの調整額を反映した当期首残高	332,004	－	3,929,614	16,534	4,278,153	35,964	33,974,320
当期変動額							
剰余金の配当							△593,877
親会社株主に帰属する当期純利益							3,793,475
自己株式の処分							11,500
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	331,792		2,145,393	△4,997	2,472,188	2,547	2,474,735
当期変動額合計	331,792	－	2,145,393	△4,997	2,472,188	2,547	5,685,833
当期末残高	663,796	－	6,075,007	11,537	6,750,341	38,512	39,660,154

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	5,036,081	5,894,512
減価償却費	1,339,130	1,448,051
減損損失	—	33,369
のれん償却額	6,637	7,063
持分法による投資損益 (△は益)	△475,748	△648,589
投資有価証券売却損益 (△は益)	△10,881	—
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	30,136	△40,043
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△29,905	△1,749
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	12,651	12,054
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	△3,500	33,510
受取利息及び受取配当金	△122,906	△234,041
支払利息	142,446	318,585
為替差損益 (△は益)	93,402	△70,174
正味貨幣持高に関する損失	56,244	126,465
固定資産除却損	4,964	4,981
固定資産売却損益 (△は益)	21,603	△1,412,337
売上債権の増減額 (△は増加)	184,389	1,417,604
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△6,935,866	513,111
仕入債務の増減額 (△は減少)	△862,589	△1,037,113
未収消費税等の増減額 (△は増加)	229,207	37,106
その他	233,874	219,717
小計	△1,050,627	6,622,085
利息及び配当金の受取額	293,694	443,945
利息の支払額	△141,652	△318,713
法人税等の支払額	△1,220,023	△2,249,120
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,118,609	4,498,195
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△1,750
定期預金の払戻による収入	152	—
長期貸付けによる支出	△900	△750
長期貸付金の回収による収入	930	1,050
投資有価証券の取得による支出	△9,755	△10,562
投資有価証券の売却による収入	29,209	—
有形固定資産の取得による支出	△957,188	△1,491,150
有形固定資産の売却による収入	13,829	2,263,551
無形固定資産の取得による支出	△86,716	△114,084
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,010,437	646,302
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	4,690,728	△3,530,634
長期借入れによる収入	1,200,000	1,000,000
長期借入金の返済による支出	△2,578,124	△2,011,356
自己株式の売却による収入	85,690	11,500
配当金の支払額	△493,648	△591,960
その他	△66,719	△87,006
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,837,926	△5,209,457
現金及び現金同等物に係る換算差額	414,906	523,793
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	123,785	458,834
現金及び現金同等物の期首残高	7,220,334	7,446,493
超インフレの調整額	102,373	△467,231
現金及び現金同等物の期末残高	※1 7,446,493	※1 7,438,096

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

- 1 連結の範囲に関する事項
連結子会社 18社
連結子会社名称は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略しております。
- 2 持分法の適用に関する事項
 - (1) 持分法適用の関連会社数 6社
持分法適用の関連会社の名称
王子ゴム化成(株)
靖江王子橡膠有限公司
Tigerflex Corporation
Alfagomma America, Inc.
愛楽(佛山)建材貿易有限公司
オーパーツ(株)
 - (2) 持分法を適用しない非連結子会社または関連会社のうち主要な会社等の名称
Kuriyama-Ohji (Thailand) Ltd.
ノルマ・ジャパン(株)
持分法を適用しない主な理由
持分法非適用会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用の範囲から除外しております。
- 3 連結子会社の事業年度等に関する事項
全ての連結子会社の事業年度末日と連結決算日は一致しております。
- 4 会計方針に関する事項
 - (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法
 - ① 有価証券
その他有価証券
・市場価格のない株式等以外のもの
時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。
・市場価格のない株式等
移動平均法による原価法によっております。
 - ② デリバティブ
時価法によっております。
 - ③ 棚卸資産
 - (1) 商品及び製品
当社及び国内連結子会社は、主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)を採用しております。また、在外連結子会社は主として移動平均法による低価法を採用しております。
 - (2) 未成工事支出金
個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)を採用しております。
 - (3) 貯蔵品
最終仕入原価法による原価法によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以後取得した建物（建物附属設備を除く）、2016年4月1日以後取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

在外連結子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～60年

機械装置及び運搬具 2～11年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づいております。また、顧客関係資産につきましては、効果の及ぶ期間に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

金銭債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 工事損失引当金

一部の国内連結子会社は、受注工事に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末手持工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、損失見込額を計上しております。

③ 役員賞与引当金

役員賞与の支給に備えるため、当連結会計年度に見合う支給見込額に基づき計上しております。

④ 賞与引当金

一部の連結子会社の従業員賞与の支給に備えるため、当連結会計年度に見合う支給見込額に基づき計上しております。

⑤ 役員退職慰労引当金

一部の連結子会社の役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

⑥ 役員株式給付引当金

株式給付信託（BBT）に対応するため、当社は、当社の取締役（監査等委員である取締役、それ以外の取締役のうち社外取締役である者及び海外居住者を除きます。）及び一部の国内子会社の取締役（社外取締役及び海外居住者を除きます。）に対して、役員株式給付規程に基づく期末要支給額を計上しております。また、当社の取締役（監査等委員である取締役、それ以外の取締役のうち社外取締役である者及び日本居住者を除きます。）及び一部の海外子会社の取締役（邦人出向者及び法人代理人を除きます。）を対象に、金銭による株価連動型報酬制度（PS）を設けており、株価に当社の定める一定の基準に従って算定された数を乗じた額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、発生時に全額費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しております。

③ 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社及び連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

①商品の販売等

当社グループでは、量産機械用資材、スポーツ施設、大型商業施設や鉄道施設等への建設資材、産業用ホース等の商品販売を行っております。当社及び連結子会社は、これらの収益を個々の契約内容に応じ、引渡、出荷、または検収時点等、約束した商品を顧客に移転することによって履行義務を充足した時に認識しております。国内の販売については、出荷時から商品の支配が顧客に移転されるときまでの期間が通常の期間である場合に、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項に定める代替的な取り扱いを適用し、主として商品を出荷した時点で収益を認識しております。

②工事契約

原則として、一定の期間にわたり充足される履行義務を判断し、期間がごく短い工事を除き、履行義務の充足に係る進捗率を見積り、当該進捗率に基づき一定の期間にわたり収益を認識しております。

なお、履行義務の充足に係る進捗率の見積りの方法は、原価比例法によっております。また、期間のごく短い工事は、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

(6) 連結財務諸表の作成の基礎となった連結会社の財務諸表の作成に当たって採用した重要な外貨建ての資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

なお、振当処理の要件を満たす為替予約については振当処理を行っております。

(8) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その効果の発現する期間にわたって均等償却を行っております。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクか負わない取引日から3ヶ月以内に満期の到来する短期投資からなっております。

(10) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

① グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

② グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用

当社及び一部の国内連結子会社は、当連結会計年度から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。）に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(重要な会計上の見積り)

(棚卸資産の評価)

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

商品及び製品	18,428,996千円
仕掛品	677,364千円
原材料及び貯蔵品	3,901,542千円
棚卸資産合計	23,007,904千円

連結貸借対照表に計上した金額の内、Kuriyama of America, Inc. (以下「KOA」) が保有する商品および製品10,056,093千円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

① 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額の算出方法

当連結会計年度の連結財務諸表に計上されている商品および製品のうち、KOA が保有する商品および製品は10,056,093千円であり、連結総資産の15.6%を占めております。

当社グループの棚卸資産の評価については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法によって算定しており、期末における正味売却価額が取得原価を下回っている場合には、当該正味売却価額をもって連結貸借対照表価額としております。保有している商品等が営業循環過程から外れた場合には、棚卸資産の品目別に過去1年間の払出実績から回転期間を計算し、一定期間を超えた回転期間の棚卸資産について、収益性の低下が認められるものとして処分見込価額まで評価減を計上しております。具体的には、過去の販売実績を基に、回転期間に応じた段階的な評価減率を定めており、処分見込価額は簿価から簿価に当該評価減率を乗じた金額を差し引いて算出しております。

② 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額の算出に用いた主要な仮定

棚卸資産の評価はその性質上判断を伴うものであり、当社グループでは商品等の過去の販売実績等が将来の期間においても継続すると仮定して商品等の将来の販売可能性を見積もっております。

③ 翌連結会計年度に係る連結財務諸表に与える影響

直近の販売実績や棚卸資産の保有量等の基礎情報が不正確であった場合には、過剰在庫及び滞留在庫の判定、評価損の計算が適切に行われず、棚卸資産の評価に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(繰延税金資産の回収可能性)

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
繰延税金資産	675,560千円	704,364千円

上記は、繰延税金負債控除後の連結貸借対照表計上金額であります。

(2) 会計上の見積りの内容について連結財務諸表利用者の理解に資するその他の情報

① 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額の算出方法

繰延税金資産は、将来発生し得る課税所得の時期及び金額を合理的に見積り、未使用の税務上の繰越欠損金及び将来減算一時差異のうち回収可能と判断される金額を計上しております。

② 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額の算出に用いた主要な仮定

繰延税金資産の回収可能性は、将来の事業計画を基礎とした将来の課税所得の見積りや未使用の税務上の繰越欠損金及び将来減算一時差異の解消見込年度のスケジューリング等に基づいて判断しております。なお、将来の事業計画は、景気は緩やかに回復していくものと仮定して策定しております。

③ 翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

上記の主要な仮定は経営者の判断を伴うため、将来の課税所得や未使用の税務上の繰越欠損金及び将来減算一時差異の解消見込時期の見積りが予想と異なった場合、翌連結会計年度の連結財務諸表について重要な影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、これによる連結財務諸表に与える影響はありません。

(未適用の会計基準等)

該当事項はありません。

(追加情報)

《業績連動型株式報酬制度（株式給付信託：BBT）導入》

当社は、2018年3月28日開催の第78期定時株主総会決議に基づき、2018年5月30日より、当社の取締役（監査等委員である取締役等、それ以外の取締役のうち社外取締役である者及び海外居住者を除きます。）及び当社の一部国内子会社の取締役（社外取締役及び海外居住者を除きます。）（以下、「グループ対象役員」といいます。）に対して、中長期的な業績向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的とし、新たな業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT（＝Board Benefit Trust）」（以下、「本制度」といいます。）を導入しております。

1. BBTの概要

当社は、グループ対象役員に役位及び業績達成度等により定まるポイントを付与し、一定の条件により受給権を取得したときに当該付与ポイントに相当する当社株式等を給付します。

グループ対象役員が当社株式等の給付を受ける時期は、原則として退任時となります。

グループ対象役員に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

2. 信託に残存する自社の株式

本制度の導入に伴い、株式会社日本カストディ銀行（信託E口）が、当社株式300,000株を取得しております。

信託における帳簿価額は前連結会計年度2億36百万円、当連結会計年度2億25百万円であります。信託が保有する自社の株式は株主資本において自己株式として計上しております。

期末株式数は前連結会計年度210,000株、当連結会計年度199,800株であり、期中平均株式数は、前連結会計年度265,178株、当連結会計年度203,852株であります。期末株式数及び期中平均株式数は、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式を含めております。

《超インフレの会計処理》

アルゼンチンの全国卸売物価指数が、同国の3年間累積インフレ率が100%を超えたことを示したため、2018年12月期において、当社グループはアルゼンチン・ペソを機能通貨とするアルゼンチンの子会社について、超インフレ経済下で営業活動を行っていると判断しました。このため当社グループは、アルゼンチンにおける子会社の財務諸表について、IAS第29号「超インフレ経済下における財務報告」に定められる要件に従い、会計上の調整を加えております。

IAS第29号は、アルゼンチンの子会社の財務諸表について、報告期間の末日現在の測定単位に修正した上で、当社グループの連結財務諸表に含めることを要求しております。

当社グループは、アルゼンチンにおける子会社の財務諸表の修正のため、Instituto Nacional de Estadística y Censos de la República Argentina（INDEC）が公表するアルゼンチンの国内卸売物価指数（IPIM）と消費者物価指数（IPC）から算出する変換係数を用いております。

アルゼンチンにおける子会社は、取得原価で表示されている有形固定資産等の非貨幣性項目について、取得日を基準に変換係数を用いて修正しております。現在原価で表示されている貨幣性項目及び非貨幣性項目については、報告期間の末日現在の測定単位で表示されていると考えられるため、修正しておりません。正味貨幣持高にかかるインフレの影響は、連結損益計算書の営業外費用に表示しております。

また、アルゼンチンにおける子会社の当連結会計年度の損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書は、上記記載の変換係数を適用して修正しております。アルゼンチンにおける子会社の財務諸表は、期末日の為替レートで換算し、当社グループの連結財務諸表に反映しております。比較連結損益計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書は、IAS第21号「外国為替レート変動の影響」42項（b）に従い修正再表示しておりません。

(連結貸借対照表関係)

1 手形債権流動化に伴う買戻し義務額

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
	56,461千円	一千円

※2 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
投資有価証券(株式)	4,905,207千円	5,509,364千円
出資金	600,626	652,095

※3 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。

(イ) 担保に供している資産

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
建物及び構築物	1,342,212千円	1,301,133千円
土地	266,378	266,378
投資有価証券	122,768	190,557
合計	1,731,358	1,758,068

(ロ) 上記に対応する債務

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
支払手形及び買掛金	305,744千円	33,835千円
短期借入金	2,689,510	965,490
1年内返済予定の長期借入金	1,031,321	833,346
長期借入金	2,085,827	1,754,886
合計	6,122,403	3,587,557

※4 期末日満期手形等の会計処理

連結会計年度末日満期手形等の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形等が、期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
電子記録債権	64,446千円	55,589千円
受取手形、売掛金及び契約資産	617	641
支払手形及び買掛金	63,922	28,455

※5 受取手形、売掛金及び契約資産のうち、顧客との契約から生じた債権及び契約資産の金額は、それぞれ以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
受取手形	895,727千円	980,657千円
売掛金	8,821,879	7,912,707
契約資産	471,247	345,454

※6 契約負債については、流動負債の「その他」に計上しております。
契約負債の金額は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
契約負債	5,631千円	6,705千円

(連結損益計算書関係)

※1 通常の販売目的で保有する棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
売上原価	90,760千円	95,934千円

※2 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
給与手当	4,410,726千円	5,045,852千円
賞与	682,424	472,033
運賃荷造費	3,129,742	3,116,920
退職給付費用	93,824	99,869
賃借料	616,771	651,229
賞与引当金繰入額	120,141	127,447
役員退職慰労引当金繰入額	96,260	△24,912
役員株式給付引当金繰入額	27,725	109,229
役員賞与引当金繰入額	98,340	81,873
貸倒引当金繰入額	14,181	19,773

※3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
	412,455千円	492,872千円

※4 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
機械装置及び運搬具	399千円	－千円
土地	－	564,356
建物及び構築物	－	832,177
工具器具備品	－	15,804
合計	399	1,412,337

※5 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
建物及び構築物	623千円	－千円
機械装置及び運搬具	4,305	1,532
その他(有形固定資産)	36	3,448
合計	4,964	4,981

※6 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
土地	22,003千円	－千円
合計	22,003	－

※7 減損損失

当社グループは以下の資産グループにおいて減損損失を計上しました。

当連結会計年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

用途	場所	種類	総額(千円)
事業資産(クリヤマジャパン株式会社)	日本 名古屋市千種区	建物附属設備及び工具、器具及び備品、その他(有形固定資産)	33,369
合計			33,369

(グルーピングの方法)

当社グループは、資産を用途により事業資産、賃貸用資産、遊休資産及び売却予定資産に分類しております。また、事業資産については各社・支店等の管理会計上の区分に基づき、賃貸用資産、遊休資産及び売却予定資産は個別物件単位でグルーピングしております。

(減損損失を認識するに至った経緯)

日本・名古屋市の事業資産においては、収益性の低下が認められるため、その帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上いたしました。

(減損損失の内訳)

・事業資産(クリヤマジャパン株式会社)

建物附属設備 26,486千円、工具、器具及び備品6,365千円、その他(有形固定資産)517千円

(回収可能価額の算定方法)

当資産グループの回収可能価額は、使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、回収可能価額はゼロとして評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	△18,020千円	406,457千円
組替調整額	△10,881	—
税効果調整前	△28,901	406,457
税効果額	2,523	△95,942
その他有価証券評価差額金	△26,378	310,514
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	6,374	—
組替調整額	—	—
税効果調整前	6,374	—
税効果額	△1,803	—
繰延ヘッジ損益	4,570	—
為替換算調整勘定：		
当期発生額	2,570,137	2,107,904
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	52,198	△17,206
組替調整額	13,609	10,002
税効果調整前	65,807	△7,203
税効果額	△20,150	2,205
退職給付に係る調整額	45,657	△4,997
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	28,175	58,766
その他の包括利益合計	2,622,162	2,472,188

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	22,300,200	—	—	22,300,200

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株) (注) 1, 2	2,790,286	—	76,000	2,714,286

(注) 1. 当連結会計年度期首及び当連結会計年度末の自己株式(普通株式)には、業績連動型株式報酬制度(株式給付信託:BBT)に係る株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式が当連結会計年度期首に286,000株、当連結会計年度末に210,000株が含まれております。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少76,000株は、業績連動型株式報酬制度に基づき退任役員に対して株式報酬として支払われたものであります。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年3月24日 定時株主総会	普通株式	494,897	25	2021年12月31日	2022年3月25日

(注) 配当金の総額には、信託の保有する自社の株式に対する配当金7,150千円を含めております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年3月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	593,877	30	2022年12月31日	2023年3月29日

(注) 配当金の総額には、信託の保有する自社の株式に対する配当金6,300千円を含めております。

当連結会計年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株）	22,300,200	—	—	22,300,200

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式（株） （注）1, 2	2,714,286	—	10,200	2,704,086

（注）1. 当連結会計年度期首及び当連結会計年度末の自己株式（普通株式）には、業績連動型株式報酬制度（株式給付信託：BBT）に係る株式会社日本カストディ銀行（信託E口）が保有する当社株式が当連結会計年度期首に210,000株、当連結会計年度末に199,800株が含まれております。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少10,200株は、業績連動型株式報酬制度に基づき退任役員に対して株式報酬として支払われたものであります。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
2023年3月28日 定時株主総会	普通株式	593,877	30	2022年12月31日	2023年3月29日

（注） 配当金の総額には、信託の保有する自社の株式に対する配当金6,300千円を含めております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
2024年3月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	809,816	45	2023年12月31日	2024年3月29日

（注） 配当金の総額には、信託の保有する自社の株式に対する配当金8,991千円を含めております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
現金及び預金勘定	7,448,238千円	7,440,147千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△1,744	△2,050
現金及び現金同等物	7,446,493	7,438,096

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

主として、情報関連機器等であります。

(イ) 無形固定資産

ソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
1年内	6,633	6,959
1年超	6,066	3,652
合計	12,699	10,612

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産で運用し、また、資金調達については銀行等金融機関からの借入による方針です。デリバティブ取引は、輸出入取引に係る為替変動リスクの回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形、売掛金及び契約資産並びに電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループ各社の規程に基づき、信用状況を把握し定期的に与信限度額の設定・見直しを行い、取引先ごとに支払期日及び債権残高の管理を行うことにより、リスク低減を図っております。投資有価証券は、主として業務上の関係を有する企業の株式であり、上場株式について市場価格の変動リスクに晒されておりますが定期的に時価を把握する体制としております。

営業債務である支払手形及び買掛金並びに電子記録債務は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金は、主に営業取引及び設備投資に係る資金調達であります。

また、営業債務や借入金は流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各社が適時に資金繰計画を作成・更新することにより管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（2022年12月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 投資有価証券 その他有価証券	960,974	960,974	—
資産計	960,974	960,974	—
(1) 長期借入金(*1)	5,414,546	5,376,354	△38,191
負債計	5,414,546	5,376,354	△38,191

当連結会計年度（2023年12月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 投資有価証券 その他有価証券	1,377,993	1,377,993	—
資産計	1,377,993	1,377,993	—
(1) 長期借入金(*1)	4,434,670	4,416,569	△18,101
負債計	4,434,670	4,416,569	△18,101

(※1). 1年内返済予定の長期借入金1,534,692千円を含めております。

(※2). 「現金及び預金」、「受取手形、売掛金及び契約資産」、「電子記録債権」、「支払手形及び買掛金」、「電子記録債務」、「短期借入金」については現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿に近似するものであることから記載を省略しております。

(※3). 市場価格のない株式等は、「(1)投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上金額は以下の通りであります。

区分	前連結会計年度 (千円)	当連結会計年度 (千円)
非上場株式	1,482	1,482
関係会社株式	4,905,207	5,509,364
出資金	532	532
関係会社出資金	600,626	652,095

(注) 2. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度 (2022年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	7,448,238	—	—	—
受取手形、売掛金及び契約資産	10,188,854	—	—	—
合計	17,637,093	—	—	—

当連結会計年度 (2023年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	7,440,147	—	—	—
受取手形、売掛金及び契約資産	9,238,818	—	—	—
合計	16,678,965	—	—	—

(注) 3. 短期借入金及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度 (2022年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	7,068,643	—	—	—	—	—
長期借入金	1,900,079	1,321,465	885,774	570,156	322,060	415,010
計	8,968,722	1,321,465	885,774	570,156	322,060	415,010

当連結会計年度 (2023年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	3,864,716	—	—	—	—	—
長期借入金	1,534,692	1,093,250	772,168	522,820	281,890	229,850
計	5,399,408	1,093,250	772,168	522,820	281,890	229,850

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度（2022年12月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	960,974	—	—	960,974
資産計	960,974	—	—	960,974

当連結会計年度（2023年12月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	1,377,993	—	—	1,377,993
資産計	1,377,993	—	—	1,377,993

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前連結会計年度（2022年12月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金	—	5,376,354	—	5,376,354
負債計	—	5,376,354	—	5,376,354

当連結会計年度（2023年12月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金	—	4,416,569	—	4,416,569
負債計	—	4,416,569	—	4,416,569

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度 (2022年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	658,649	281,659	376,990
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	302,324	324,375	△22,051
合計		960,974	606,035	354,938

当連結会計年度 (2023年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	1,345,563	568,498	777,065
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	32,430	48,099	△15,669
合計		1,377,993	616,597	761,395

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	29,209	10,881	—

当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	—	—	—

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

その他有価証券で市場価格のない株式等について減損処理を行っておりません。

当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

その他有価証券で市場価格のない株式等について減損処理を行っておりません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度 (2022年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度 (2023年12月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けており、一部の国内連結子会社は中小企業退職金共済制度に加入しております。

なお、一部の国内連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表((2)に掲げられたものを除く)

退職給付債務の期首残高(千円)	808,156
勤務費用(千円)	34,740
利息費用(千円)	1,082
数理計算上の差異の発生額(千円)	△40,701
退職給付の支払額(千円)	△73,421
簡便法から原則法への変更に伴う振替額(千円)	11,496
確定拠出年金制度への移行に伴う減少額(千円)	—
退職給付債務の期末残高(千円)	729,856

(2) 簡便法を適用した制度の退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高(千円)	72,606
退職給付費用(千円)	2,985
制度への拠出額(千円)	△308
退職給付の支払額(千円)	△707
簡便法から原則法への変更に伴う振替額(千円)	△19,727
退職給付に係る負債の期末残高(千円)	54,848

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整額

非積立型制度の退職給付債務(千円)	784,705
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額(千円)	784,705

退職給付に係る負債(千円)	784,705
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額(千円)	784,705

(注) 簡便法を採用した制度を含みます。

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用(千円)	18,038
利息費用(千円)	1,082
数理計算上の差異の費用処理額(千円)	13,609
確定給付制度に係る退職給付費用(千円)	32,730

(注) 1. 簡便法を採用した制度を含みます。
2. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、勤務費用に計上しております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

数理計算上の差異（千円）	△65,807
合計（千円）	△65,807

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識数理計算上の差異（千円）	△23,832
合計（千円）	△23,832

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率 主として0.552%

3. 確定拠出制度

当社グループの確定拠出制度への要拠出額は、69,833千円であります。

当連結会計年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けており、一部の国内連結子会社は中小企業退職金共済制度に加入しております。

なお、一部の国内連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（(2)に掲げられたものを除く）

退職給付債務の期首残高（千円）	729,856
勤務費用（千円）	30,837
利息費用（千円）	4,028
数理計算上の差異の発生額（千円）	17,206
退職給付の支払額（千円）	△43,131
簡便法から原則法への変更に伴う振替額（千円）	—
確定拠出年金制度への移行に伴う減少額（千円）	△11,616
退職給付債務の期末残高（千円）	727,181

(2) 簡便法を適用した制度の退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高（千円）	54,848
退職給付費用（千円）	9,906
制度への拠出額（千円）	△168
退職給付の支払額（千円）	△1,710
簡便法から原則法への変更に伴う振替額（千円）	—
退職給付に係る負債の期末残高（千円）	62,877

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整額

非積立型制度の退職給付債務（千円）	790,058
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額（千円）	790,058

退職給付に係る負債（千円）	790,058
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額（千円）	790,058

(注) 簡便法を採用した制度を含みます。

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用（千円）	40,744
利息費用（千円）	4,028
数理計算上の差異の費用処理額（千円）	10,002
確定給付制度に係る退職給付費用（千円）	54,775

- (注) 1. 簡便法を採用した制度を含みます。
2. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、勤務費用に計上しております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

数理計算上の差異（千円）	7,203
合計（千円）	7,203

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識数理計算上の差異（千円）	△16,628
合計（千円）	△16,628

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率 主として0.575%

3. 確定拠出制度

当社グループの確定拠出制度への要拠出額は、73,671千円であります。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
繰延税金資産		
棚卸資産評価損等	362,441千円	412,229千円
棚卸資産未実現利益	226,213	241,828
未払事業税	21,133	20,046
貸倒引当金	25,115	30,996
工事損失引当金	1,068	11,329
退職給付に係る負債	262,072	269,539
投資有価証券評価損	71,865	43,351
税務上の繰越欠損金	294,551	241,640
固定資産減損損失	105,690	105,619
のれん等	38,907	43,107
役員退職慰労引当金	46,777	50,879
資産除去債務	12,814	13,639
役員株式給付引当金	61,045	90,072
研究開発費繰越控除	83,709	105,788
その他	294,910	322,730
繰延税金資産小計	1,908,319	2,002,800
評価性引当額	△388,960	△409,784
繰延税金資産合計	1,519,359	1,593,016
繰延税金負債		
特別償却準備金	△598,092	△661,036
関係会社留保利益	△631,775	△964,383
その他有価証券評価差額金	△56,246	△152,188
資本連結による評価差額金	△16,009	△8,234
その他	△217,677	△249,980
繰延税金負債合計	△1,519,801	△2,035,823
繰延税金資産(負債)の純額	△442	△442,807

(注) 1. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額
前連結会計年度 (2022年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠損金 (※1)	17,320	20,179	20,350	19,008	9,791	207,900	294,551
評価性引当額						△106,932	△106,932
繰延税金資産	17,320	20,179	20,350	19,008	9,791	100,968	(※2)187,618

当連結会計年度 (2023年12月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠損金 (※1)	18,656	18,827	16,658	8,268	8,268	170,960	241,640
評価性引当額						△98,103	△98,103
繰延税金資産	18,656	18,827	16,658	8,268	8,268	72,857	(※2)143,536

(※1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(※2) 当該税務上の繰越欠損金については、将来の課税所得の見込みにより、回収可能と判断した部分については評価性引当額を認識しておりません。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
法定実効税率	30.62%	30.62%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.75	1.76
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.37	△0.19
海外子会社の税率差異	△4.42	△2.77
海外受取配当金等に係る外国税額	2.65	6.42
住民税均等割	0.43	0.40
税務上の繰越欠損金の利用	△2.55	△0.01
評価性引当額	△0.70	0.59
その他	△0.40	△1.21
税効果会計適用後の法人税等の負担率	27.75%	35.61%

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

不動産賃借契約に伴う原状回復義務を資産除去債務として計上しております。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

当該資産取得からの使用見込期間を7年、割引率は1.0%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。なお、当該資産は既に使用見込期間を経過しているため割引計算を行っておりません。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

前連結会計年度において、増減はありません。

当連結会計年度において、増減はありません。

ニ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
期首残高	20,892千円	20,892千円
時の経過による調整額	—	—
見積りの変更による増加額	—	—
資産除去債務の履行による減少額	—	—
期末残高	20,892	20,892

(収益認識関係)

1 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前連結会計年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント						
	アジア事業				北米事業	欧州・南米事業	合計
	産業資材事業	スポーツ・建設資材事業	その他事業(注)	合計			
収益認識の時期							
一時点で移転される財	18,066,073	8,489,225	739,499	27,294,799	37,039,894	4,760,232	69,094,926
一定期間にわたり移転されるサービス	237,754	2,143,186	—	2,380,941	—	—	2,380,941
顧客との契約から生じる収益	18,303,828	10,632,412	739,499	29,675,740	37,039,894	4,760,232	71,475,868
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	18,303,828	10,632,412	739,499	29,675,740	37,039,894	4,760,232	71,475,868

(注) その他事業の主なものは、スポーツアパレル事業であります。

当連結会計年度(自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント						
	アジア事業				北米事業	欧州・南米事業	合計
	産業資材事業	スポーツ・建設資材事業	その他事業(注)	合計			
収益認識の時期							
一時点で移転される財	17,390,509	7,513,900	707,861	25,612,272	38,975,772	5,195,901	69,783,945
一定期間にわたり移転されるサービス	357,094	1,531,951	—	1,889,045	—	—	1,889,045
顧客との契約から生じる収益	17,747,603	9,045,851	707,861	27,501,317	38,975,772	5,195,901	71,672,990
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	17,747,603	9,045,851	707,861	27,501,317	38,975,772	5,195,901	71,672,990

(注) その他事業の主なものは、スポーツアパレル事業であります。

2 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

連結財務諸表の作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約資産の残高等

前連結会計年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

	当連結会計年度(期首) (2022年1月1日)	当連結会計年度 (2022年12月31日)
顧客との契約から生じた債権	9,617,310千円	9,717,607千円
契約資産	254,287千円	471,247千円

当連結会計年度(自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

	当連結会計年度(期首) (2023年1月1日)	当連結会計年度 (2023年12月31日)
顧客との契約から生じた債権	9,717,607千円	8,893,364千円
契約資産	471,247千円	345,454千円

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、残存履行義務に配分した取引価格については、当初に予想される契約期間が1年を超える重要な契約がないため、実務上の便法を適用し、記載を省略しております。

また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、商品の種類及び販売市場の類似性を考慮してセグメントを決定しており、各セグメントの統括会社又は統括部門において、取り扱う商品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。各報告セグメントの主要な製品は以下のとおりであります。

報告セグメント	主要な製品等
北米事業	各種ホース
産業資材事業	樹脂製品、各種ホース、工業用ゴム等
スポーツ・建設資材事業	道路橋梁資材、港湾土木資材、建築資材、都市景観資材、スポーツ関連施設資材
欧州・南米事業	各種ホース、消防用金具等
その他事業	スポーツアパレルブランド「MONTURA」、ダスコン関連商品等

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、連結財務諸表を作成するために採用される会計方針に準拠した方法であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間取引の内部売上高又は内部振替高は、主に市場価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント							調整額 (注2)	連結 財務諸表 計上額 (注3)
	アジア事業				北米事業	欧州・南米 事業	合計		
	産業資材事業	スポーツ・ 建設資材事業	その他事業 (注1)	合計					
売上高									
外部顧客への売上高	18,303,828	10,632,412	739,499	29,675,740	37,039,894	4,760,232	71,475,868	—	71,475,868
セグメント間の内部売上高又は振替高	986,244	100,990	78,994	1,166,229	92,251	1,815,582	3,074,063	△3,074,063	—
計	19,290,072	10,733,403	818,493	30,841,970	37,132,145	6,575,815	74,549,931	△3,074,063	71,475,868
セグメント利益又は損失(△)	2,729,407	616,556	△191,917	3,154,047	2,034,387	361,942	5,550,377	△990,313	4,560,064
セグメント資産	16,509,709	5,692,660	1,454,512	23,656,883	31,756,845	6,269,813	61,683,543	1,225,583	62,909,126
その他の項目									
減価償却費	326,747	73,387	24,133	424,268	606,299	273,449	1,304,018	35,112	1,339,130
持分法適用会社への投資額	2,931,032	169,308	—	3,100,340	2,405,492	—	5,505,833	—	5,505,833
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	168,311	19,765	68,434	256,511	1,377,784	152,205	1,786,500	51,268	1,837,769

(注) 1. 「その他」事業の主なものスポーツアパレル事業であります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1)セグメント利益又は損失の調整額△990,313千円には、セグメント間取引消去△26,201千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△964,111千円が含まれております。

(2)セグメント資産の調整額1,225,583千円には、セグメント間取引消去△2,689,098千円及び管理部門に帰属する全社資産3,914,682千円が含まれております。

(3)減価償却費の調整額35,112千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用35,112千円が含まれております。

(4)有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額51,268千円は、管理部門に帰属する全社資産に係る設備投資額であります。

3. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント							調整額 (注2)	連結 財務諸表 計上額 (注3)
	アジア事業				北米事業	欧州・南米 事業	合計		
	産業資材事業	スポーツ・ 建設資材事業	その他事業 (注1)	合計					
売上高									
外部顧客への売上高	17,747,603	9,045,851	707,861	27,501,317	38,975,772	5,195,901	71,672,990	-	71,672,990
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	843,884	-	80,483	924,367	78,332	1,761,714	2,764,415	△2,764,415	-
計	18,591,488	9,045,851	788,344	28,425,685	39,054,105	6,957,615	74,437,406	△2,764,415	71,672,990
セグメント利益 又は損失(△)	2,408,408	251,854	△311,481	2,348,781	2,156,700	340,306	4,845,788	△874,658	3,971,130
セグメント資産	16,462,305	5,698,637	1,849,128	24,010,071	32,386,960	5,576,351	61,973,383	2,564,424	64,537,807
その他の項目									
減価償却費	312,102	89,505	37,455	439,063	680,929	299,785	1,419,778	28,272	1,448,051
持分法適用会社 への投資額	3,170,967	191,938	-	3,362,905	2,798,553	-	6,161,459	-	6,161,459
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	147,573	39,033	35,582	222,189	1,381,340	191,777	1,795,308	70,545	1,865,853

(注) 1. 「その他」事業の主なものはスポーツアパレル事業であります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1)セグメント利益又は損失の調整額△874,658千円には、セグメント間取引消去△15,894千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△858,764千円が含まれております。

(2)セグメント資産の調整額2,564,424千円には、セグメント間取引消去△2,550,930千円及び管理部門に帰属する全社資産が5,115,355千円含まれております。

(3)減価償却費の調整額28,272千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用28,272千円が含まれております。

(4)有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額70,545千円は、管理部門に帰属する全社資産に係る設備投資額であります。

3. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報として、同様の情報が開示されているため、記載を省略します。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	米国	カナダ	欧州	その他	合計
26,063,413	31,022,315	3,713,176	4,177,541	6,499,420	71,475,868

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国ごとに分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	米国	カナダ	欧州	その他	合計
4,159,910	5,260,207	1,446,893	1,443,745	4,503	12,315,260

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため記載を省略しております。

当連結会計年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報として、同様の情報が開示されているため、記載を省略します。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	米国	カナダ	欧州	その他	合計
24,914,493	33,061,648	3,270,796	4,135,817	6,290,234	71,672,990

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国ごとに分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	米国	カナダ	欧州	その他	合計
3,955,171	5,358,529	1,629,459	1,309,955	3,302	12,256,417

3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント							全社・消去	合計
	アジア事業				北米事業	欧州・南米事業	合計		
	産業資材事業	スポーツ・建設資材事業	その他事業(注1)	合計					
減損損失	-	-	33,369	33,369	-	-	33,369	-	33,369

(注) 1. 「その他」事業の主なものとはスポーツアパレル事業であります。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント							全社・消去	合計
	アジア事業				北米事業	欧州・南米事業	合計		
	産業資材事業	スポーツ・建設資材事業	その他事業(注1)	合計					
当期償却額	-	-	-	-	6,637	-	6,637	-	6,637
当期末残高	-	-	-	-	15,544	-	15,544	-	15,544

(注) 1. 「その他」事業の主なものとはスポーツアパレル事業であります。

当連結会計年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント							全社・消去	合計
	アジア事業				北米事業	欧州・南米事業	合計		
	産業資材事業	スポーツ・建設資材事業	その他事業(注1)	合計					
当期償却額	-	-	-	-	7,063	-	7,063	-	7,063
当期末残高	-	-	-	-	9,486	-	9,486	-	9,486

(注) 1. 「その他」事業の主なものとはスポーツアパレル事業であります。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の役員及び個人主要株主等

前連結会計年度（自2022年1月1日 至2022年12月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	愛楽(佛山)建材貿易有限公司	中国 佛山市	2,318 千円	タイル・建設 資材輸出	間接40.00	商品の仕入 役員の兼任	商品の仕入	706,339	前渡金	45,389
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	(株)アイコット リョーワ	岐阜県 多治見市	30,000	タイル建材製造	(被所有) 0.25	商品の仕入 役員の兼任	商品の仕入	100,580	支払手形及び買掛金	49,511

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

商品の購入価格につきましては、市場価格を勘案して、当社希望価格を掲示し、毎期価格交渉の上、一般取引価格と同様に決定しております。

2. 愛楽(佛山)建材貿易有限公司は当社の関連会社でもあります。

当連結会計年度（自2023年1月1日 至2023年12月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	愛楽(佛山)建材貿易有限公司	中国 佛山市	2,318 千円	タイル・建設 資材輸出	間接40.00	商品の仕入 役員の兼任	商品の仕入	536,035	前渡金	21,281
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	(株)アイコット リョーワ	岐阜県 多治見市	30,000	タイル建材製造	(被所有) 0.25	商品の仕入 役員の兼任	商品の仕入	65,667	支払手形及び買掛金	7,084
									電子記録債務	12,875

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

商品の購入価格につきましては、市場価格を勘案して、当社希望価格を掲示し、毎期価格交渉の上、一般取引価格と同様に決定しております。

2. 愛楽(佛山)建材貿易有限公司は当社の関連会社でもあります。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自2022年1月1日 至 2022年12月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
関連会社	王子ゴム化成㈱	山口県 防府市	200,000	工業用ゴム・合成樹脂製品の製造と販売	直接39.73	商品の販売及び仕入 役員の兼任	商品の仕入	233,116	支払手形及び買掛金	53,026
関連会社	Tigerflex Corporation	米国 イリノイ州	6,000 千US\$	樹脂ホースの製造	間接45.00	商品の仕入 役員の兼任	商品の仕入	6,577,318	支払手形及び買掛金	997,849

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

商品の購入価格につきましては、市場価格を勘案して、当社希望価格を掲示し、毎期価格交渉の上、一般取引価格と同様に決定しております。

当連結会計年度（自2023年1月1日 至 2023年12月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	王子ゴム化成㈱	山口県防府市	200,000	工業用ゴム・合成樹脂製品の製造と販売	直接39.73	商品の販売及び仕入 役員の兼任	商品の仕入	273,646	支払手形及び買掛金	48,464
関連会社	Tigerflex Corporation	米国 イリノイ州	6,000 千US\$	樹脂ホースの製造	間接45.00	商品の仕入 役員の兼任	商品の仕入	6,965,608	支払手形及び買掛金	895,350

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等
商品の購入価格につきましては、市場価格を勘案して、当社希望価格を提示し、毎期価格交渉の上、一般取引価格と同様に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 重要な関連会社の要約財務情報

当連結会計年度において、重要な関連会社は王子ゴム化成㈱及びTigerflex Corporationであり、その要約財務諸表は以下のとおりであります。

(単位：千円)

	王子ゴム化成㈱		Tigerflex Corporation	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
流動資産合計	4,533,642	5,123,099	2,900,404	3,459,981
固定資産合計	3,402,955	3,528,780	2,420,775	2,725,872
流動負債合計	1,499,492	1,694,945	318,866	286,453
固定負債合計	379,426	387,951	88,510	107,507
純資産合計	6,057,678	6,568,982	4,913,802	5,791,893
売上高	4,310,487	5,325,743	6,577,318	6,965,608
税引前当期純利益	571,799	689,816	923,452	1,323,673
当期純利益	410,164	500,146	657,952	939,922

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
1株当たり純資産額	1,750円19銭	2,021円91銭
1株当たり当期純利益	186円23銭	193円62銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当社は、「株式給付信託 (BBT)」を導入しております。株主資本において自己株式として計上されている信託が保有する当社株式は、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益の算定上、控除する自己株式に含めております。当該自己株式の期中平均株式数は前連結会計年度2,769,464株、当連結会計年度2,708,138株であり、このうち「株式給付信託 (BBT)」の信託財産として保有する当社株式の期中平均株式数は、前連結会計年度265,178株、当連結会計年度203,852株であり、期末発行済株式数は、前連結会計年度210,000株、当連結会計年度は199,800株であります。

3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当連結会計年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	3,637,204	3,793,475
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	3,637,204	3,793,475
普通株式の期中平均株式数 (株)	19,530,736	19,592,062

(重要な後発事象)
該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	7,068,643	3,864,716	2.8	—
1年以内に返済予定の長期借入金	1,900,079	1,534,692	0.5	—
1年以内に返済予定のリース債務	292,871	427,438	—	—
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く)	3,514,466	2,899,978	0.5	2025年3月31日～ 2030年3月22日
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く)	948,586	1,238,656	—	2025年2月28日～ 2029年12月31日
計	13,724,647	9,965,482	—	—

(注) 1 平均利率については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,093,250	772,168	522,820	281,890
リース債務	373,432	275,918	285,159	225,116

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	18,434,803	36,698,541	55,155,582	71,672,990
税金等調整前四半期(当期) 純利益(千円)	1,503,798	2,555,212	3,878,575	5,894,512
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益(千円)	1,069,156	1,795,460	2,718,466	3,793,475
1株当たり四半期(当期)純 利益(円)	54.59	91.66	138.76	193.62

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	54.59	37.08	47.10	54.86

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	958,954	1,732,669
売掛金	※2 8,610	※2 13,061
未収還付法人税等	471	254,306
前払費用	20,763	18,046
関係会社未収入金	368,534	6,932
その他	14,045	4,541
流動資産合計	1,371,379	2,029,558
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 2,078,221	※1 2,010,921
構築物	12,974	11,988
工具、器具及び備品	6,215	4,150
土地	※1 630,761	※1 630,761
有形固定資産合計	2,728,172	2,657,821
無形固定資産		
借地権	77,098	77,098
ソフトウェア	36,170	75,132
その他	4,705	4,040
無形固定資産合計	117,974	156,271
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 962,456	※1 1,379,475
関係会社株式	4,079,201	4,079,201
関係会社出資金	2,162,868	2,162,868
繰延税金資産	140,829	36,457
敷金及び保証金	64,146	61,450
その他	10,495	5,992
投資その他の資産合計	7,419,997	7,725,447
固定資産合計	10,266,144	10,539,540
資産合計	11,637,524	12,569,098

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
関係会社短期借入金	2,870,000	1,870,000
1年内返済予定の長期借入金	※1 185,160	※1 185,160
未払金	※2 99,874	※2 102,455
未払費用	8,756	9,480
未払法人税等	276,805	5,014
前受金	※2 21,577	※2 21,506
賞与引当金	10,030	10,828
役員賞与引当金	29,500	59,250
その他	454	1,131
流動負債合計	3,502,159	2,264,825
固定負債		
長期借入金	※1 1,155,650	※1 970,490
役員株式給付引当金	199,365	294,162
その他	26,415	31,266
固定負債合計	1,381,430	1,295,919
負債合計	4,883,590	3,560,745
純資産の部		
株主資本		
資本金	783,716	783,716
資本剰余金		
資本準備金	737,400	737,400
その他資本剰余金	237,719	237,719
資本剰余金合計	975,119	975,119
利益剰余金		
利益準備金	115,000	115,000
その他利益剰余金		
配当準備金	15,000	15,000
別途積立金	860,000	860,000
繰越利益剰余金	5,652,428	7,584,832
利益剰余金合計	6,642,428	8,574,832
自己株式	△1,946,022	△1,934,522
株主資本合計	6,455,241	8,399,146
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	298,692	609,206
評価・換算差額等合計	298,692	609,206
純資産合計	6,753,933	9,008,353
負債純資産合計	11,637,524	12,569,098

②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
営業収益		
経営指導料	※1 541,947	※1 580,339
不動産賃貸収入	※1 273,964	※1 273,184
商標権使用料	※1 49,423	※1 47,486
関係会社受取配当金	※1 1,432,765	※1 2,875,491
銀行保証料	※1 245	※1 308
営業収益合計	2,298,346	3,776,811
営業費用	※1, ※2 991,999	※1, ※2 1,201,704
営業利益	1,306,346	2,575,106
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	39,728	50,134
為替差益	4,604	307
その他	4,272	530
営業外収益合計	48,604	50,972
営業外費用		
支払利息	※1 36,710	※1 27,384
その他	95	2
営業外費用合計	36,805	27,386
経常利益	1,318,145	2,598,692
特別利益		
投資有価証券売却益	10,881	—
固定資産売却益	3,254	—
特別利益合計	14,135	—
特別損失		
固定資産売却損	4,226	—
特別損失合計	4,226	—
税引前当期純利益	1,328,054	2,598,692
法人税、住民税及び事業税	△458	63,981
法人税等調整額	34,232	8,428
法人税等合計	33,774	72,410
当期純利益	1,294,279	2,526,281

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
						配当準備金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	783,716	737,400	237,719	975,119	115,000	15,000	860,000	4,853,046	5,843,046
当期変動額									
剰余金の配当								△494,897	△494,897
当期純利益								1,294,279	1,294,279
自己株式の処分									
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	—	799,382	799,382
当期末残高	783,716	737,400	237,719	975,119	115,000	15,000	860,000	5,652,428	6,642,428

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	△2,031,712	5,570,169	325,070	325,070	5,895,239
当期変動額					
剰余金の配当		△494,897			△494,897
当期純利益		1,294,279			1,294,279
自己株式の処分	85,690	85,690			85,690
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			△26,378	△26,378	△26,378
当期変動額合計	85,690	885,072	△26,378	△26,378	858,694
当期末残高	△1,946,022	6,455,241	298,692	298,692	6,753,933

当事業年度（自 2023年1月1日 至 2023年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
						配当準備金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	783,716	737,400	237,719	975,119	115,000	15,000	860,000	5,652,428	6,642,428
当期変動額									
剰余金の配当								△593,877	△593,877
当期純利益								2,526,281	2,526,281
自己株式の処分									
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	—	1,932,404	1,932,404
当期末残高	783,716	737,400	237,719	975,119	115,000	15,000	860,000	7,584,832	8,574,832

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△1,946,022	6,455,241	298,692	298,692	6,753,933
当期変動額					
剰余金の配当		△593,877			△593,877
当期純利益		2,526,281			2,526,281
自己株式の処分	11,500	11,500			11,500
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			310,514	310,514	310,514
当期変動額合計	11,500	1,943,904	310,514	310,514	2,254,419
当期末残高	△1,934,522	8,399,146	609,206	609,206	9,008,353

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

有価証券

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法によっております。

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法によっております。

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法（ただし、1998年4月1日以後取得した建物（建物附属設備は除く）、2016年4月1日以後取得した建物附属設備及び構築物については、定額法）によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	7～50年
構築物	7～60年
工具、器具及び備品	3～15年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

3 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

4 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、当事業年度に見合う支給見込額に基づき計上しております。

(2) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に備えるため、当事業年度に見合う支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員株式給付引当金

株式給付信託（BBT）に対応するため、当社は、当社の取締役（監査等委員である取締役等、それ以外の取締役のうち社外取締役である者及び海外居住者を除きます。）及び一部の国内子会社の取締役（社外取締役及び海外居住者を除きます。）に対して、役員株式給付規程に基づく期末要支給額を計上しております。また、当社の取締役（監査等委員である取締役、それ以外の取締役のうち社外取締役である者及び日本居住者を除きます。）及び一部の海外子会社の取締役（邦人出向者及び法人代理人を除きます。）を対象に、金銭による株価連動型報酬制度（PS）を設けており、株価に当社の定める一定の基準に従って算定された数を乗じた額を計上しております。

5 収益及び費用の計上基準

当社の収益は、子会社からの経営指導料、業務委託料、固定資産賃貸料及び受取配当金となります。

経営指導料及び業務委託料については、子会社への契約内容に応じた受託業務を提供することが履行義務であり、業務が実施された時点で当社の履行義務が充足されることから、当該時点で収益を認識しております。

固定資産賃貸料については、子会社への契約内容に応じた固定資産を貸与することが履行義務であり、時の経過につれて充足されるため、契約期間にわたって収益を計上しております。

受取配当金については、収益認識会計基準第3項により同会計基準適用の対象外となるため、収益を理解するための基礎となる情報の記載を省略しております。

6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

①グループ通算制度の適用

グループ通算制度を適用しております。

②グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用

当社は、当事業年度から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。）に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(重要な会計上の見積り)

(関係会社株式等の評価)

1 当事業年度の財務諸表に計上した金額

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
関係会社株式	4,079,201千円	4,079,201千円
関係会社出資金	2,162,868千円	2,162,868千円

(注) 上記の関係会社出資金はKuriyama Europe Cooperatief U.A. (以下「KEC」)に対するものであります。

2 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

① 当事業年度の財務諸表に計上した金額の算出方法

市場価格のない関係会社株式等の減損処理の要否は、取得原価と実質価額とを比較することにより判定し、関係会社の1株当たりの純資産額に所有株式数を乗じた実質価額が関係会社株式等の取得価額に比べて50%程度以上低下した場合、回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除き、実質価額まで減損処理することとしています。当事業年度末におけるKEC出資金の実質価額が取得価額の50%程度以上低下していないことを踏まえ、減損処理は実施しておりません。

② 主要な仮定

KEC出資金の実質価額は、その事業子会社Técnicas e Ingeniería de Protección, S.A.U. (以下「TIPSA」)が保有する固定資産の減損の要否によって重要な影響を受けます。

TIPSAが保有する固定資産に減損の兆候がある場合には、帳簿価額と見積り将来キャッシュ・フローに基づいた回収可能価額を比較し、減損の要否を検討しております。

将来キャッシュ・フローの見積りの算出に用いる主要な仮定は、顧客からの受注の見込み及び事業計画が対象とする期間後における成長率であります。

なお、当事業年度においては、TIPSAの事業計画と当事業年度における同社の実績及び翌事業年度以降の見込みとの間に重要な乖離がないこと、又回収可能価額を著しく低下させる変化及び経営環境の著しい悪化は識別されていないことから減損の兆候は無いと判断しました。

③ 翌事業年度に係る財務諸表に与える影響

翌事業年度において、KEC及びTIPSAの財務諸表を基礎として算定された関係会社株式等の実質価額が著しく下落し、更に回収可能性が見込めない状況に至る場合には、関係会社株式等の評価損が発生する可能性があります。

(繰延税金資産の回収可能性)

1 当事業年度の財務諸表に計上した金額

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
繰延税金資産(純額)	140,829千円	36,457千円

繰延税金負債と相殺前の金額は188,646千円(前事業年度は197,075千円)であります。

2 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

① 当事業年度の財務諸表に計上した金額の算出方法

繰延税金資産は、将来発生し得る課税所得の時期及び金額を合理的に見積り、未使用の税務上の繰越欠損金及び将来減算一時差異のうち回収可能と判断される金額を計上しております。

② 当事業年度の財務諸表に計上した金額の算出に用いた主要な仮定

繰延税金資産の回収可能性は、将来の事業計画を基礎とした将来の課税所得の見積りや未使用の税務上の繰越欠損金及び将来減算一時差異の解消見込年度のスケジューリング等に基づいて判断しております。なお、将来の事業計画は、景気は緩やかに回復していくものと仮定して策定しております。

③ 翌事業年度の財務諸表に与える影響

上記の主要な仮定は経営者の判断を伴うため、将来の課税所得や当事業年度の未使用の税務上の繰越欠損金及び将来減算一時差異の解消見込時期の見積りが予想と異なった場合、翌事業年度の財務諸表について重要な影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、これによる財務諸表に与える影響はありません。

(表示方法の変更)

前事業年度において、流動資産の「その他」に含めて表示しておりました「未収還付法人税等」は、金額的重要性が増したため当事業年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「その他」に表示していた14,516千円は、「未収還付法人税等」471千円、「その他」14,045千円として組み替えております。

(追加情報)

≪業績連動型株式報酬制度(株式給付信託:BBT)導入≫

連結財務諸表「注記事項(追加情報)」に同一の内容が記載されているため、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
建物	1,342,212千円	1,301,133千円
土地	266,378	266,378
投資有価証券	122,768	190,557
合計	1,731,358	1,758,068

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
1年内返済予定の長期借入金	139,080千円	139,080千円
長期借入金	868,450	729,370
子会社の短期借入金	2,689,510	965,490
子会社の1年内返済予定の長期借入金	660,041	694,266
子会社の長期借入金	472,307	1,025,516
子会社の買掛金	305,744	33,835
合計	5,135,133	3,587,557

※2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務（区分表示されたものを除く）

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
短期金銭債権	8,610千円	13,061千円
短期金銭債務	71,579	79,744

3 偶発債務

下記関係会社の取引先への仕入債務等に対し、債務保証を行っております。

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
クリヤマジャパン(株)	55,586千円	33,873千円

下記関係会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
クリヤマジャパン(株)	1,628,240千円	678,820千円
Kuriyama of America, Inc.	—	425,490
Kuriyama Europe Cooperatief U.A.	—	57,741
Técnicas e Ingeniería de Protección, S.A.U.	—	141,408
合計	1,628,240	1,303,459

(損益計算書関係)

※1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
営業取引による取引高		
営業収益	2,270,440千円	3,748,904千円
営業費用	81,343	56,539
営業取引以外の取引による取引高	29,231	20,866

※2 当社は持株会社のため一般管理費として全額を計上しております。

営業費用のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)	当事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)
減価償却費	84,473千円	95,800千円
給料及び手当	147,292	162,056
役員報酬	58,000	89,781
広告宣伝費	189,947	193,878
役員賞与引当金繰入額	29,500	59,250
役員株式給付引当金繰入額	27,725	109,229
賃借料	88,786	88,169

(有価証券関係)

前事業年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

子会社株式、関連会社株式及び関係会社出資金は、市場価格のない株式等のため、子会社株式、関連会社株式及び関係会社出資金の時価を記載しておりません。

なお、市場価格のない株式等の子会社株式、関連会社株式及び関係会社出資金の貸借対照表計上額は次のとおりです。

区分	前事業年度 (千円)
子会社株式	3,994,127
関連会社株式	85,074
関係会社出資金	2,162,868
計	6,242,069

当事業年度 (自 2023年1月1日 至 2023年12月31日)

子会社株式、関連会社株式及び関係会社出資金は、市場価格のない株式等のため、子会社株式、関連会社株式及び関係会社出資金の時価を記載しておりません。

なお、市場価格のない株式等の子会社株式、関連会社株式及び関係会社出資金の貸借対照表計上額は次のとおりです。

区分	当事業年度 (千円)
子会社株式	3,994,127
関連会社株式	85,074
関係会社出資金	2,162,868
計	6,242,069

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	1,573千円	543千円
社会保険料	675	841
賞与引当金	3,071	3,315
資産除去債務	2,787	3,613
新設分割設立会社の株式に係る一時差異	184,860	184,860
グループ法人税制適用に伴う譲渡損失調整額	16,372	16,372
減損損失	50,618	50,618
投資有価証券評価損	71,865	43,351
関係会社株式評価損	2,772	2,772
株式給付引当金	61,045	90,072
その他	13,783	13,590
繰延税金資産小計	409,427	409,952
評価性引当額	△212,351	△221,305
繰延税金資産合計	197,075	188,646
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△56,246	△152,188
繰延税金負債合計	△56,246	△152,188
繰延税金資産の純額	140,829	36,457

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2022年12月31日)	当事業年度 (2023年12月31日)
法定実効税率	30.62%	30.62%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.74	1.32
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△32.32	△33.00
住民税均等割	0.10	0.11
評価性引当額	△1.51	1.44
海外受取配当金等に係る外国税額	1.25	2.30
その他	2.65	0.01
税効果会計適用後の法人税等の負担率	2.54	2.79

グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用

当社は、当事業年度から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「重要な会計方針 5. 収益及び費用の計上基準」に記載の通りであります。

(重要な後発事象)
該当事項はありません。

④【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	2,078,221	6,327	—	73,626	2,010,921	1,347,486
	構築物	12,974	—	—	985	11,988	115,100
	工具、器具及び備品	6,215	—	—	2,064	4,150	17,438
	土地	630,761	—	—	—	630,761	—
	計	2,728,172	6,327	—	76,677	2,657,821	1,480,025
無形固定資産	借地権	77,098	—	—	—	77,098	—
	ソフトウェア	36,170	127,434	77,220	11,251	75,132	—
	その他	4,705	—	—	665	4,040	—
	計	117,974	127,434	77,220	11,917	156,271	—

(注) 1. 当期減少額のうち主なものは以下のとおりであります。

(単位：千円)

資産の種類	内容	金額
ソフトウェア	経営情報システム構築 仮勘定振替	77,220

(注) 2. 当期増加額のうち主なものは以下のとおりであります。

(単位：千円)

資産の種類	内容	金額
建物	新大阪支社 自動ドア設置工事他	5,117
ソフトウェア	経営情報システム構築	127,224

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
賞与引当金	10,030	10,828	10,030	10,828
役員賞与引当金	29,500	59,250	29,500	59,250
役員株式給付引当金	199,365	109,229	14,432	294,162

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎決算期の翌日から3ヶ月以内
基準日	12月31日
剰余金の配当基準日	6月30日、12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	無料
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告としております。ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることが出来ない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 なお、電子公告は当社のウェブサイトに掲載しており、そのアドレスは次のとおりであります。 https://www.kuriyama-holdings.com/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

取得請求権付株式の取得を請求する権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及び その添付書類並びに 確認書	事業年度 (第83期)	自 2022年1月1日 至 2022年12月31日	2023年3月28日 近畿財務局長に提出。
(2) 内部統制報告書及び その添付書類	事業年度 (第83期)	自 2022年1月1日 至 2022年12月31日	2023年3月28日 近畿財務局長に提出。
(3) 四半期報告書及び 確認書	(第84期第1四半期)	自 2023年1月1日 至 2023年3月31日	2023年5月12日 近畿財務局長に提出。
	(第84期第2四半期)	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日	2023年8月8日 近畿財務局長に提出。
	(第84期第3四半期)	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日	2023年11月8日 近畿財務局長に提出。
(4) 臨時報告書	金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示 に関する内閣府令第19条第2項第9号の2に基づく臨時 報告書(株主総会における議決権行使の結果)でありま す。		2023年3月31日 近畿財務局長に提出。
	金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示 に関する内閣府令第19条第2項第3号の規定に基づく臨 時報告書(特定子会社の異動)であります。		2023年12月14日 近畿財務局長に提出。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2024年3月28日

クリヤマホールディングス株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人 大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 徳野 大二

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池内 正文

<連結財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているクリヤマホールディングス株式会社の2023年1月1日から2023年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、クリヤマホールディングス株式会社及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

連結子会社の棚卸資産の評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>クリヤマホールディングス株式会社は、当連結会計年度の連結貸借対照表において商品及び製品を18,428,996千円計上している。当該金額には、北米事業セグメントに所属する米国子会社であるKuriyama of America, Inc.（以下、「KOA」）の商品及び製品10,056,093千円が含まれており、総資産の15.6%に相当する。</p> <p>【注記事項】（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）4 会計方針に関する事項 (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法③棚卸資産に記載のとおり、在外連結子会社の商品及び製品は、主として移動平均法による低価法により算定している。</p> <p>KOAは北米地域を中心に各種産業用ホース・継手等の販売を主な事業とする会社であり、その商品の大部分はKOAの子会社から供給を受けている。KOAは適時に顧客への供給を果たすために品揃えを充実させ、顧客からの注文に対応するために一定の在庫水準を維持する方針があることに加え、当連結会計年度における円安の影響も受け、連結財務諸表におけるKOAの棚卸資産の金額は増加している。</p> <p>また、【注記事項】（重要な会計上の見積り）（棚卸資産の評価）に記載のとおり、KOAは営業循環過程から外れた商品等については、棚卸資産の品目別に過去1年間の払出実績から回転期間を計算し、一定期間を超えた回転期間の棚卸資産について、収益性の低下が認められるものとして処分見込価額まで評価減を計上している。具体的には、過去の販売実績を基に、回転期間に応じた段階的な評価減率を定めており、処分見込価額は簿価から簿価に当該評価減率を乗じた金額を差し引いて算出している。</p> <p>このため、商品の需要予測を誤った場合や需要予測が変化した場合には、保有する棚卸資産が過剰となり、過剰在庫の処分のための値引き販売、商品評価損又は商品廃棄損の計上を余儀なくされる可能性がある。</p> <p>KOAが評価損の計上のために採用した方針は、一定の回転期間を超える場合に定期的に帳簿価額を切り下げる方法であるものの、直近の販売実績や棚卸資産の保有量等の基礎情報が不正確であった場合には、過剰在庫及び滞留在庫の判定、評価損の計算が適切に行われず、棚卸資産の評価に重要な影響を及ぼす可能性がある。</p> <p>上述の連結財務諸表におけるKOAの棚卸資産の金額が増加している状況を勘案すると、同社の事業に関連する棚卸資産の評価損の計算において基礎となる情報の網羅性と正確性が特に重要であり、当監査法人は当該事項を監査上の主要な検討事項と判断した。</p>	<p>当監査法人は、KOAの棚卸資産の評価について検討するに当たり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <p>(1) KOAの経営環境を理解するため、経営者に対する質問を実施した。</p> <p>(2) KOAが作成する棚卸資産の評価に関する方針、滞留在庫の定義、評価方法について理解した。</p> <p>(3) KOAの棚卸資産の評価に関連する内部統制について、特に滞留在庫の管理プロセスに関連する評価に関連する内部統制に焦点を当てて、その整備状況及び運用状況の有効性を評価した。</p> <p>また、当監査法人はKOAの監査人から、以下を含む監査手続の実施結果の報告を受け、棚卸資産の評価に係る十分かつ適切な監査証拠が入手されているかどうかを評価した。当監査法人は、連結子会社の監査人による監査の実施状況を監督するため、対面及びビデオ会議を利用したコミュニケーションを実施するとともに、監査人の関連する監査調書を閲覧した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前連結会計年度における棚卸資産の評価に係る見積りと、当連結会計年度の確定額及び再見積額を比較することによる見積りの精度の評価 ・正味売却価額の算定の基礎となる単価について直近の販売実績単価との照合 ・正味売却価額の再計算 ・正味売却価額と取得原価とを比較し、評価損が正確かつ網羅的に計上されているかどうかの検討 ・滞留在庫評価損の計算に利用する基礎情報の網羅性と正確性を検証するとともに、過剰在庫又は滞留在庫と判断された棚卸資産に対する規則的な帳簿価額の切り下げに関する方針の適用状況の検討

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

<内部統制監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、クリヤマホールディングス株式会社の2023年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、クリヤマホールディングス株式会社が2023年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。

- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

<報酬関連情報>

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等（3）【監査の状況】に記載されている。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

2024年3月28日

クリヤマホールディングス株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 徳野 大二

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池内 正文

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているクリヤマホールディングス株式会社の2023年1月1日から2023年12月31日までの第84期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、クリヤマホールディングス株式会社の2023年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

当監査法人は、監査報告書において報告すべき監査上の主要な検討事項はないと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

<報酬関連情報>

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。